

SMITHSONIAN INSTITUTION LIBRARIES



3 9088 00083 9605

L. Stejneger.

北海道水產調查報告

卷之二
鱻漁業

北海道廳內務部水產課



正 誤

- 八 頁 二 行 此顯象ノ下ヲ皇セツノ四字ヲ脱ス
- 同 三 行 來游アリノ下ヲノ字ヲ脱ス
- 十 頁 八 行 厚澤部ノ下川口ノ二字ヲ脱ス
- 十一頁十一行 漁岸一帶ハ海岸ノ誤
- 十四頁八行 尻岸ノ下内ノ字ヲ脱ス
- 二十二頁三行 迴游不足ハ不定ノ誤
- 二十六頁六行 九尋三尺ノ九字ノ右肩ニヲ脱ス
- 同 未 行 表。中。上。欄。船。ノ。下。種。ノ。字。ヲ。脱。ス
- 二十八頁六行 名。囀。ハ。名。稱。ノ。誤
- 三十六頁十三行 一貫ノ下目ノ字ヲ脱ス
- 三十九頁六行 三十尋ハ二十尋ノ誤
- 四十三頁十五行 豫メ網ハ綱ノ誤
- 五十四頁十三行 共ニハ共ニノ誤
- 六十三頁二行 尻岸ノ下内ノ字ヲ脱ス
- 六十七頁十一行 油槽ノ傍訓はちどろハはちどろノ誤

明治二十年鯷地曳網漁業統計中

收獲・鯷油・價格ノ渡島合計	1,220	ハ	1,220	ノ誤
營業者・計ノ總計	245	ハ	246	ノ誤
一人所有漁網・一ノ總計	230	ハ	231	ノ誤
同 計ノ總計	245	ハ	246	ノ誤
漁網・小網ノ總計	57	ハ	58	ノ誤
同 現行ノ總計	314	ハ	315	ノ誤
收獲・鯷油・價格ノ總計	2,701	ハ	2,702	ノ誤

凡例

- 一 鯧ノ字ハ魚族ヲ汎稱スルコトアリ又ま鯧ヲ指稱スルコトアリ之レヲ區別セサルハ適切ノ文字ヲ發見セサルニ由ル前後ノ文脈ニヨリ之ヲ識別スルヲ要ス
- 一 名稱ニ本字ヲ填ムルアリ平假名ヲ用フルアリ一定セサルハ好字面ヲ得サルト又勉メテ俗稱ヲ用フルニ由ルひらぶノ平字ニ於ケルひしこノ鯧ニ於ケルゆきなり網ノ行成網ニ於ケル是レナリ
- 一 漁具製造等鯧漁業ト同一ノモノハ此レニ畧シテ彼レニ詳ナルコトアリ
- 一 地名ニ字ヲ稱スルアリ村名ヲ記スルアリ一律ナラサルハ稱呼ノ便ニ從フ
- 一 右ノ外總テ北海道水産調査報告卷之一鯧漁業ノ凡例ニ由ル

正

頁	行	誤	正
三	一二二六〇〇	二六〇〇	二六〇〇
三	一一一八〇〇	一八〇〇	一八〇〇
五	一六北太平洋諸場	北太平洋諸場	北太平洋諸場
一二	一五二五四二八	二五四二八	二五四二八
一五	一六舷數	船數	船數
一六	一七區位	區別	區別
一八	一六飼料	飼料	飼料
二三	一五短シ	低シ	低シ
二四	三曳網	曳網	曳網
二五	三六太平洋	太平洋	太平洋
二六	一六平滑ニシ肩胛	平滑ニシテ肩胛	平滑ニシテ肩胛
二七	七日本沿海漁場	日本沿海漁場	日本沿海漁場
二八	一二太平洋	太平洋	太平洋
四〇	一一あがれい	あがれい	あがれい
四四	一六太平洋	太平洋	太平洋
四九	一江差左奥	江差左奥	江差左奥
五三	一一漉半	漉半	漉半
五三	一〇其左奥	其在奥	其在奥
五三	一一薬師村大かもし石	薬師村大から石	薬師村大から石
五三	一三二百五十尋	百五十尋	百五十尋
六五	一三海面	海面	海面
六八	八飄落	飄落	飄落
七四	五前表ノ此ク	前表ノ如ク	前表ノ如ク
九三	一五某ノ山嶺ナ一直線	某ノ山嶺ナ一直線	某ノ山嶺ナ一直線

誤

頁	行	誤	正
九八	一四一定セス潮	一定セス潮	一定セス潮
一〇二	八黎明	黎明	黎明
一〇四	一三一艘	三艘	三艘
一一四	九平均一四二〇〇	平均一四二〇〇	平均一四二〇〇
一一四	一七同軌	同軌	同軌
一三九	一〇晚近	晚近	晚近
一四〇	一製精	精製	精製
一四二	一四力ヲ以テ	力ヲ以テ	力ヲ以テ
一五〇	一三能取岬ニ至レハ	能取岬沖合ニ至レハ	能取岬沖合ニ至レハ
一五一	一六羅舊	羅白	羅白
一五一	一三都樓	群樓	群樓
一五二	表中緯度 44°10'	44°10'	44°10'
一五二	表中記事 海圖外國ヲ参照ス	海圖外國ヲ参照ス	海圖外國ヲ参照ス
一五三	表中記事 釣獲	釣獲	釣獲
全	一六目梨海場	目梨海場	目梨海場
一五七	一四隆窪小シ	隆窪少シ	隆窪少シ
一五八	表中記事三八ノ鱈ニ尾鰭四尾云々ノ記事ハ上	鱈ニ尾鰭四尾云々ノ記事ナリ	鱈ニ尾鰭四尾云々ノ記事ナリ
一六二	位ノ M S ノ記事ナリ	七十七尋	七十七尋
一六四	九十七尋	最良漁場トス	最良漁場トス
一六四	一七最良漁場トス	米國太	米國太
一六八	五米國太	位置ノ二	位置ノ二
一七五	七接合ハ「テッドウッド」ノ下ニ連接	位置ノ二	位置ノ二
一七五	セシム	ケトイ	ケトイ
一七五	八キールシステム	水温平均 57.00	水温平均 58.00

緒言

鯉魚ハ固ト鯉ト其族ヲ同フス乃チ種族ヨリ觀察セハ之ヲ一篇ニ收ムルノ
正當ナルヲ知ル然レトモ漁場ノ區域營業ノ組織等頗ル其狀ヲ異ニセルヲ
以テ特ニ別篇トシテ刊行ス且ツ篇中記スル所ノ兒鯉ハ鯉ノ稚魚ナレハ之
ヲ鯉調査報告ニ收ムヘキモ慣行ノ久キ視テ以テ鯉漁業ノ一ニ置ケリ故ニ
姑ク世俗ノ見ニ從フ若シ夫レ本業ノ開發年紀ニ至テハ之レヲ徵證スル文
書ニ乏キモ夙成漁業ノ一ニ居ルハ疑ヲ容ル可ラス維新前既ニ本道主要物
産トシテ各地ニ營業スル者鮮ナカラス收穫亦年ヲ逐フテ増益シ多ク年所
ヲ經タルモノナルコトヲ證スルニ足ル其間盛衰變遷ノ跡ハ各章記述スル
所ニ就テ精察センコトヲ望ム今ヤ水産調査報告第二卷成ル乃チ一言卷首
ニ辯ス

明治二十九年一月

北海道廳技師 和田健三識



北海道水産調査報告卷之二 鱈漁業目次

第一章 水族

自一丁至八丁

種類

二丁

鯧 鯧 兒鯧

第二章 漁場

自九丁至二十丁

後志國

九丁

渡島國

十丁

檜山郡 松前郡 上磯郡 函館區 龜田郡 茅部郡

膽振國

十六丁

山越郡 虻田郡 有珠郡 室蘭郡 幌別郡 白老二郡 勇拂

日高國

十八丁

沙流郡 新冠郡 靜內郡 三石郡 浦河郡 樣似郡 幌泉郡

十勝國

二十丁

廣尾郡 當緣郡

第三章 漁期

自二十一丁至二十四丁

第四章 漁船漁具及漁法

自二十五丁至五十四丁

漁船

二十五丁

種類名稱及使用ノ區域 構造及大小 漁船材料 新調費

漁具

二十九丁

種類 網地

曳網類 地曳網附保存年限法及 新調費

建網類 待網 新調費

旋網類 小舌網 新調費

漁法

四十一丁

地曳網漁法

待網漁法

小舌網漁法

攢網漁法

附巾着網及改良揚繰網構造并使用法

第五章

收穫及製造

自五十五丁至七十五丁

收穫

五十五丁

國別累年收穫表 郡別累年收穫及價額表

製造

六十三丁

榨粕 魚油 乾塲及製造器具

附田作 腮刺鯧 煮乾鯧 薰製鯧 鹽漬鯧 罐詰鯧

以上

北海道水産調査報告卷之二 鯧漁業

第一章 水族

本道ニ於ケル鯧ノ名稱ハ頗ル煩雜ニ涉レルモ其實異稱同物ノモノ多ク種類ニ由テ分別セハ三種ニ過キス曰ク鯧、鯧、兒鯧是レナリ而シテ鯧ノ二寸五分乃至三寸ナルヲ小平子ト呼ヒ四五寸ナルヲ中平子六七寸ナルヲ大平子ト稱ス又大中平子ヲ通シテ七ツ星ト云フ體ノ側面ニ六七點ノ黒斑ヲ存スルヲ以テナリ秋季脂肪ニ富メハ膩鯧ノ異稱アリ

鯧ノ種類亦幾多ノ稱謂アリ陰曆五月中來游シ長ク四寸以上ナルヲ五月もの若クハごぼうせぐろト云フ一寸五分乃至二寸五分ナルヲぢやみ鯧三寸以上四寸以下ヲ丸鯧若クハ背黒ト稱ス一ニ片口ト唱フ上顎非常ニ突出シ下顎薄ク且ツ短キヲ以テ此名アリ

兒鯧一ニばか鯧ノ名アリ素ト鯧ノ稚魚ニシテ此異名アルハ松前藩ノ時鯧魚ノ保護ヲ勉メタルヲ以テ其稚魚ヲ漁獲スルノ名ヲ忌ミ特ニ異稱ヲ附シ當時ノ禁制ヲ免カレタルモノナリト故ニ治城ニ近キ山崎漁場ハ兒鯧ノ稱ヲ用フル者ナキモ樽前ニ至レハばか兒鯧ヲ併セ稱シ日高ハ主トシテ兒鯧ヲ稱シ更ニ忌憚スルノ情ナシ亦以テ藩制ヨリ起リタルノ稱謂タルヲ知ルニ足レリ

鯧 鯧

魚族ノ種類異稱ヲ舉クレハ前記ノ如キモ又期節ヲ以テ名稱ヲ附スルコトアリ即チ左ノ如シ

春 鯧 鯧 兒 鯧

夏 鯧 鯧

秋 鯧 鯧

各魚族ノ特徴ヲ下ニ記ス

鯧 族

鯧 屬 *Clupea*

上顎突出セスシテ眼球ニ運動スル脂肪質ノ瞬膜ヲ有ス

鯧 *C. harengus*, Linn. B. S. D. 17-20. A. 16-18. L. lat. 53-59. Vert. 50.

鯧蓋骨ニ條痕ヲ缺キ體壓匾セラレ其側面ニ黒斑ヲ存セス

鯧 *C. melanosticta*, Schleg. B. 6. D. 17-18. A. 16-17. L. lat. 45. Vert. 50.

鯧蓋骨ニ條痕アリ體前種ニ比スレハ稍圓ク體側ニ黒斑ヲ存ス

鯷屬 *Engraulis*

上顎尖リ口深ク裂ク眼球ハ膜ヲ以テ蓋ハル

鯷 *E. japonica*, Hout. B. 13. D. 17. A. 22. L. lat. 42. Vert. 47.

喙尖リ口角前鰓蓋骨ノ前縁ニ達シ體圓ク側面ニ銀線アリ

鯷 (第二圖版参照) 洄游期 (常習 遷移)

此二種ハ相混シテ洄游スルヲ常トス素ト暖海ノ魚族ニシテ初夏ノ候南海ヨリ來
 リ本道ニ夏季ヲ經過シ晚秋初冬ノ交南海ニ歸リ去ル漁夫ノ言ニ夏季ヲ下リ鯷秋
 季ヲ上リ鯷ト唱フ下リ鯷ノ早期ハ即チ五月ものニシテ孕卵ノ最モ成熟セル期節
 トス維新前ハ每歲必ラス大群ノ洄游アリシモ近年鯷ハ全ク其跡ヲ絶チ其稚魚ノ
 隻影ヲモ認メサルハ近海ニ産卵セサルノ證ナリ又鯷ノ來游モ頗ル不定トナレリ
 七月初旬渡島以東ノ沿海ニ鯷ノ隊ヲ成シテ游泳スルハ五月ものノ産卵孵化シタ
 ルモノタルハ疑ヲ容レスト雖モ其産卵場ハ果シテ何ニ在ルヤヲ詳カニセス鯷ノ
 生長シテ八月ニ至レハゴヤみ鯷トナリ背黒トナリ終ニ南海ニ去ル
 夏鯷ハ大小相混シタル群團ニシテ鯷其大部ヲ占メ鯷ハ少部ニ居レリ満潮ニ來リ
 干潮ニ去ル餌料ヲ追フテ游行シ魚群散漫シ易シ故ニ網ヲ下スニ當リ逃逸シテ網
 目ニ頭ヲ刺シ斃ル、ノ狀ハ宛モ産卵鯷ノ刺網ニ掛リタル如ク満網銀ヲ敷キ一見

大漁ノ觀アルモ其實漁獲多カラス秋鯧ハ鯧大部ヲ占メ鯧少部ニ居ル朝夕若クハ夜中ニ洄游シテ晝間漁獲アルコト稀レナリ海豚又ハ鯧ノ爲メニ追尾セラレトキハ時ヲ擇ハス近岸ニ密集シ長ク滯留シテ意料外ノ豐獲ヲ占ムルコトアリ下リ鯧ノ群團ハ進行極メテ迅速網ヲ下スノ機ヲ失フノ恐レナシトセサレトモ巧ニ通路ノ前程ヲ遮キリ網ニ誘致スレハ漁獲甚タ難カラス

魚族ノ種類ニ從ヒ其常習ノ異ナル點ヲ舉シレハ鯧ハ游泳中跳躍シテ尾ヲ水面ニ顯シ夜間燈火ニ親ミ鯧ハ體ノ全部ヲ水面ニ顯ハスノ性アリ

本道ニ來游スル鯧ハ漁期ノ早晚遷移ノ方向ニヨリ觀察スルニ南日本ノ東西兩沿海ヨリ來ルモノ、如シ日本海ヨリ來ル一群ハ渡島國松前近海ニ於テ二群ニ分レ一ハ西海岸ニ出テ石狩灣ニ達シ稀レニ宗谷海峽ヲ經テ北見ノ沿海ニ達スルコトアリ他ノ一群ハ東向シテ上磯龜田茅部ノ諸郡ヲ洄游シ夏季内浦灣ニ滯留シ東漸シテ襟裳岬ニ及ヒ時ニ或ハ釧路近海ニ達スルコトアリ又太平洋ヨリ來游スル一群ハ先ツ膽振ノ沿海ニ顯ハレ東漸シテ日本海ヨリ來リタル群ト合一シテ歸路ニ就クモノ、如シ秋季龜田郡ニ大漁アルハ津輕海峽「中」ノ激流ニ南歸ヲ阻隔セラレ近岸ノ緩流ニ滯留スルノ天幸アルニ由レリ此漁獲中鯧ノ種類多キハ太平洋ノ暖流ニ乘シテ北上シタル魚群ノ一部前路ヲ轉シ此ニ洄游スルナキヲ得ン乎聞ク陸奥東部沿岸ノ鯧漁場ニ秋鯧ノ收穫減セリトノ事實ハ此考察ヲ正確ナラシム

水 族

ルノ一反證ニアラサル歟左ニ遷移ニ關係アル諸縣漁期ノ終始ヲ對比ス

國名

下リ鯧

上リ鯧

日 渡 後 國

七月 上月 下旬

九月 二月 下旬

本 羽 後 國

七月 月中旬 下旬

九月 二月上旬

海 越 後 國

六月 月下旬

十二月 月上旬

日 高 國

六月 月中旬 下旬

九月 月下旬

太 膽 振 國

六月 月中旬 下旬

九月 月下旬

平 陸 中 國

七月 月上旬 下旬

十一月

洋 常 陸 國

六月 月

十一月 月

上 總 國

六月 月

十二月 月

下リ鯧ノ來游ハ南地ニ早クシテ北地ニ遅レ上リ鯧ハ北地ニ早ク南地ニ遅ル左レ

ハ鯧ノ來去ハ氣候ト海流ヲ追フテ南ヨリ北ニ來リ再ヒ北ヨリ南ニ歸ルヲ知ルニ

足ラン從テ本道洄游ノ區域頗ル廣濶ナルモ暖流ノ勢力大ナル所ニアラサレハ洄

游不定ニシテ常業ノ漁場ト爲スニ足ラス是レ渡島膽振ニ本業ノ最盛ナル所以ナ

リ

兒 鯧

初夏膽振以東ノ沿海ニ來集ス(陸奥ノ東海岸ニモ此魚群ヲ認ムルコトアリト云フ)

體長三寸左右ヲ有シ終期四寸内外ニ達ス盛夏釧路厚岸地方ニ五六寸大ノモノヲ認ムルコトアリ餌料ヲ追フテ洄游ス常ニ密集ノ大群ヲナシ沖合ニ掩留シ曇天若クハ濃霧ノ起リシトキ濱岸ニ來游ス海流潮流ニ由テ進行ヲ妨ケラレサルモ風ニ逆向スル能ハス網ヲ下スヤ中央ニ密集シ散逸ノ憂ナシ漁獲極メテ容易ナリばカノ名稱アル所以ナラン往年上磯郡ニ來游シ龜田郡古武井茅部郡尾札部ニ來集スルノ例ナリシカ現今ハ膽振國以東ニ限リテ洄游スルモノ、如シ或ハ曰ク山崎漁塲ニ始メテ來リ樽前ニ至ルト二十六年二十七年ノ漁業日誌ニ據レハ却テ反對ノ顯象アリ蓋シ山崎漁塲ハ内浦灣ノ奥底ニ位スルヲ以テ初期遅ク終期早キモノナラン此魚群ノ東遷スルノ證トシテ左ニ二十四年ノ漁業日誌ヲ西地ヨリ東地ニ順列ス

地名	初漁ノ月日
膽小絲魚村	六月五日
振苦小牧村	同 七日
國勇拂村	同 七日
波惠村	六月九日
日高江村	同 十一日
高下々方村	同 十四日

水 族

國 姨 布 村 同 二十三日
 樣 似 村 同 二十九日

洄游ノ變遷 全道ノ收穫高ヨリ觀察セハ追年其額ヲ増加シタルノ跡アレトモ一
 地一部ノ産出ヲ見ルトキハ頗ル盛衰消長ノ變遷アリ試ニ明治六年ヨリ起算シ毎
 五ヶ年ヲ一期トシ每期收穫ノ平均ヲ示ス

國名 第一期 自十六年至十九年 第二期 自二十一年至二十四年 第三期 自二十六年至二十九年 第四期 自三十一年至三十四年

後志國

渡島國 一、〇六四_石 一三、四三九_石 二四、五四四_石 二四、五六五_石

膽振國 六、三一七 四、三三一 四、一八七 七、九三六

日高國 四、三七二 四、六九〇 三、〇〇二 三、三五三

十勝國 五七四 二三三 七六 六五六

計 一二、三二七 二二、六九三 三一、八〇九 三六、七八七

渡島ノ漁獲第一期以後追年増加シテ衰頽ノ狀ナキハ龜田郡秋鯧ノ洄游毎年密集
 シテ漁期ヲ愆ラサルニ由ル茅部郡ハ夏鯧ノ漁場ナレハ之ヲ郡別トシテ見ルトキ
 ハ大ニ衰退ノ色アリ但龜田郡ニ接スル地ハ秋鯧ヲ兼ヌルヲ以テ稍進歩ノ狀アリ
 上磯松前ノ二郡ハ漁期夏秋ニ涉リ發達ノ中ニ在リ二十六年ノ豐漁ニ上磯郡獨リ
 其澤ヲ被ラサリシハ異數ノ事ナリトス

膽振日高十勝ノ三國ハ第三期迄逐年衰退シ第四期ニ至リ收穫ヲ加ヘタリ此地方ハ兒鯧鯧ヲ主トスル漁場ナルニ鯧ノ洄游極メテ薄ク且ツ不定ナルニ由テ此顯象樽前漁場ハ近年秋鯧ノ來游アリ著シク回復ノ勢アリ十勝國ハ魚族ノ種類ニ變遷ナキモ漁場ハ東部ニ擴張シ進歩ノ趨勢ナリ之ヲ要スルニ夏鯧ハ洄游不定群團密集セス故ニ意外ノ豐漁ナキモ古來ノ經歷ニ徴セハ四年間ニハ必ラス一回ノ大漁アリ秋鯧ハ洄游ニ定期アリ群團密集シ豐漁三年ニ及ヘハ其後三年ノ薄漁アルモノ、如シ(累年收穫表參照)

第二章 漁 場

鯤族洄游ノ區域ハ前章ニ記スル如ク極メテ廣濶ナルモ漁場トシテ觀察スルトキハ殆ト洄游區ノ半ニ過キス現今本業ノ進歩セルハ渡島、膽振、日高ノ三國トス後志國十勝國ノ一部亦本業ヲ營ムモノナキニアラサルモ其數極メテ少シ左ニ明治二十六年ノ調査ニ係ル網數ヲ掲ケ本業ノ盛衰ヲ示ス

後志國

二六^統

渡島國

五六九

膽振國

一一九

日高國

四六

十勝國

一〇

地曳網漁場ハ沿岸平沙ノ海ヲ擇フ故ニ岸上地勢ノ峻夷ハ地曳網漁業ノ開發ニ關スルヤ大ナリ前記五國ノ漁場ヲ記スル下ノ如シ

後志國

西北、積丹岬ヨリ東南、瀬棚郡ニ至ル地勢概テ本業ニ適セス斷巖壁立地曳網ヲ下ス可キ平地ハ島牧郡千走川口ヲ最トシ群團亦密ナリ積丹郡野塚村、壽都郡樽岸村、歌棄郡潮路村等ニ少數ノ漁場アルモ魚群ノ洄游疎ニシテ且ツ不定ナリ一個ノ專業ト爲スノ收利ナシ

渡島國

渡島國

十

西部爾志郡ニハ熊石、泊川、相沼内ノ三村中漁塲ヲキニアラサレトモ毎年必ラス網ヲ下スニ足ル可キ收穫ナシ檜山郡ヨリ東、茅部郡ニ至ル間漁塲斷續セリ就中上磯龜田茅部ノ三郡ハ其主要地ニシテ津輕海峽ハ暖潮ノ北海ニ流注シテ東西二海岸ニ分流スル衝路ニ當リ水温最モ高シ鯧魚好テ洄游ス且ツ山端岬角ノ斗出スルモノ多ク海水陸地ニ蝕入シ梶灣ヲ爲シ風力ヲ遮斷シ漁塲ノ掩護トナリ沿岸平沙地アリテ地曳網ニ便ナリ本道中鯧漁業ノ最モ進歩發達セル地方ナリトス魚族ハ鯧鯉ノ二種ヲ主トス以下各郡ノ漁塲ヲ記ス

檜山郡 漁塲ヲ分テ二トス一ハ江差市街ノ西方厚澤部ニ在リ一ハ南方五勝手村沙濱ヨリ天ノ川口ニ至ル間ニ在リ江差ニ接近スル所ハ水淺ク暗礁碁布シ天ノ川方面ニ進ムニ從テ適當ノ水深ヲ得魚群屬集郡中ノ好漁塲トス然レトモ之ヲ上磯龜田地方ニ比スレハ固ヨリ數等ノ下ニ位ス右ノ外石崎川口附近時ニ洄游ナキニアラサレトモ不定ニシテ群集モ密ナラス專業ト爲スニ足ラス

松前郡 福山市街沿海ハ巖礁散在スルモ魚群密集シテ建網ヲ用ユルニ適セリ但區域ノ狹隘ナルヲ憾ム及部川口ヨリ荒谷村間ハ潮勢激烈ナラス風波平靜沙濱ニシテ地曳網ニ便ナリ荒谷村以東ハ巖礁多ク水亦深キヲ以テ建網ヲ用フ白神岬ニ接近スルニ從ヒ巨巖亂立岬角斗出シ潮勢風力共ニ甚キヲ加ヘ攢網ノ外用フル

漁 塲

コト能ハス岬ノ以東矢越岬ニ至ル間福島村ノ沙濱アリ僅ニ數ヶ所ノ地曳網漁塲ヲ得其他江良町吉岡村ニ二三ノ建網塲若クハ小地曳網漁塲アルモ平地狹隘魚群密ナラス好漁塲ト云フヲ得ス

上磯郡 沿岸概テ漁塲ナラサルナシ由來夏鯔ノ收穫ヲ以テ聞ユ郡中各村ノ漁塲ヲ記セハ知内村字涌元ヨリ木古内川迄ハ一直線ノ平沙ニシテ魚群ノ東南ヨリ洄游スル頗ル饒多ナリ此間岬角丘陵ノ風力ヲ掩護スルモノナク南風東風ノ害ヲ被ム尔特ニ甚シ又北風連吹ノ後あいまわり(大風後十餘時間ヲ隔テ反對ノ方向ヨリ來ル波濤ヲ云フ)ノ害アリ又遠クシテ白神岬近クシテ矢越岬ノ斗出セルアリテ中の潮ノ勢力大ニ減殺セリ此地松前郡福島村、函館區、有川村、泉澤村等ノ入稼塲タリ

木古内川口ヨリ釜谷村ニ至ル沿岸ハ平沙灣入セルモ泉澤村ノ漁岸一帶ノ高臺トナリ臺下絶壁削立シ加フニ著名ナル更木ノ暗礁アリ地曳網ヲ下スニ便ナラス

石別村葛登支岬ノ西部當別川口及岬ノ東部茂邊地川口ニ沙濱アリ廣濶ナラサルモ魚群ノ豊富ナル風濤ノ安穩ナル頗ル良好ノ地曳網漁塲ナリ

富川村字あさり濱ヨリ大野川口ニ至ル間ハ地曳網ヲ下スヲ得地位函館灣ノ西部ニ在リ風浪ノ憂ナク郡中木古内ニ亞クノ漁塲ニシテ茂邊地ノ沿岸ニ比スレハ廣濶ナリ網數收穫亦其上ニアリ但海底遠淺ノ爲メ魚群近岸ニ來ラサルヲ憾ム谷好

村、上磯村ノ入會漁場タリ全郡沿岸ノ延長凡ソ十五里其内漁場ニ適スル所ヲ舉
レハ

知内村字涌元ヨリ釜谷村間 六里

當別川口 三丁餘

茂邊地川口 六丁餘

富川大野川口間 二里八丁

函館區 漁場ハ港ノ内外ニ在リ龜田郡七飯濱ヨリ港内山脊泊ニ至ル沿岸ハ市
街ニシテ人家櫛比殆ト地曳網ヲ容ル、ノ餘地ヲ存セス龜田郡及市區ノ端邊僅ニ
漁場アリ沖網ヲ使用ス船舶ノ出入益頻繁ヲ加ヘ望ヲ屬スルノ漁場ニアラス
區内住吉町ヨリ大森濱ヲ經テ湯川村ニ達スル延長約ソ一里一望平沙函館山ノ一
角立待岬南方ニ斗出シ稍灣形ヲ爲シ南風東風ヲ除ク外ハ風力ヲ掩護ス海底甚タ
深カラス魚群洄游ノ通路ハ夏季知内方面ヨリ來リ秋季ハ汐首方面ヨリ來ルヲ常
トス加フルニ立待岬沖合ハ潮流激烈ナルヲ以テ魚群近岸ノ靜穩ナル所ニ集合淹
滞シ待網ヲ使用シテ漁獲甚タ豊カナリ
龜田郡 下湯川村ニ起リ惠山岬ヲ經テ根法華村銚子岬ニ終ル處々巖石散在シ
テ地曳網漁場ト爲ス可ラサル地ハ建網ヲ使用ス大體ヨリ觀察セハ國中第一位ヲ
占ムルノ收獲アリ沿岸ノ地勢汐首岬ヲ境界トシテ二様ニ區別スルヲ得西部ハ平

坦ニシテ海底時ニ暗礁ノ散點スルコトアルモ概テ地曳網ヲ用フ可シ東部ハ峻嶮
 ナル山脚近ク海岸ニ迫リ沙濱ニ乏シク稍廣濶ノ平地ハ尻岸内村字古武井、根法華
 村字矢尻濱アルノミ然レトモ幾多ノ小岬斗出シ風力ヲ遮斷スルノ便アリ
 下湯川村以東沙首岬ニ至ル間五村アリ曰ク根崎、志苔、錢龜澤、石崎、小安是レナリ西
 部ハ陸地平夷山遠ク海底亦遠淺ナレモ東漸スルニ從ヒ丘陵海ニ迫リ海水亦深キ
 ナ加フ海底粘土床散在セルヲ以テ床ノナキ所ヲ撰テ網ヲ下サ、ルヲ得ス故ニ大
 網ヲ用フル能ハス晚秋初冬ノ交沙首岬ヨリ洄游スル魚群ハ岬角ノ急潮ヲ避ケ近
 岸ニ麇集スルヲ以テ漁獲特ニ豊カナリ漁期中西北風ノ連吹スルアルモ地形上風
 害ヲ感スル少シ又後背ノ山嶺秀峻ナルヲ以テ東風ニ變スルモ風力ヲ遮斷スルノ
 便アルト同時ニ岸上ノ陸地高臺トナリ乾塲ニ狹隘ヲ感スルノ憾ナシトセス小安
 村ノ東端沙首岬ハ巖礁亂立潮流駛走魚群ノ通過甚々艱ム鰯魚之ヲ追尾シ來リ沙
 際岩角ニ跳躍シ攔網ヲ以テ容易ニ之ヲ抄ヒ取ルノ奇觀アリ漁具ハ待網、澗網、攔網
 等ナリ
 戸井村ハ沙首岬ノ東部ニ在リ小岬角斗出シ數條ノ細流海ニ朝ス此岬側川口ハ皆
 地曳網ヲ下ス可シ其主要ノ地ヲ舉クレハ中歌、鎌歌、原木等トス沙首ニ亞テ魚群密
 集ス
 尻岸内村ト古武井濱ノ間稍廣濶ナル沙濱アリ地曳網ヲ用フ可シ其他尻岸内川口、

日浦川口ハ魚群ノ密集前者ト伯仲ス
 椴法華村ハ國中東端ニ挺出スル處ニ位シ惠山岬ト銚子岬ノ間ニ在リ沿岸約ソ
 三里地曳網漁塲ト爲ス可キハ銚子岬ノ南側二十町許ノ沙濱アルノミ魚群密集ス
 ルモ位地外洋ニ露出シ風害ヲ受クル多シ惠山岬ハ巖峙チ潮激シ水深フシテ網ヲ
 下スコト容易ナラス全郡沿岸ノ延長凡ソ十五里主要漁塲ヲ舉クレハ

湯川村ヨリ汐首間 三里六丁

戸井村 一里十丁

尻岸村 一里二十五丁

椴法華村 二十丁

茅部郡 東部ノ一半ハ龜田郡ノ後背ヲ爲シ地勢嶮阻沙濱ニ乏シ西部ノ一半ハ
 内浦灣ニ枕ミ鹿部村以西白沙平坦最モ地曳網ニ適セリ但落部村近傍建網ノ漁塲
 アルモ大體ヨリ見レハ大ニ龜田郡ト其趣ヲ異ニセリ又西風及南西風ヲ忌ム潮流
 ノ沖ヨリ來ルヲ惠山汐ト稱シ(暖流ノ末派ナラシ)灣内ヨリ沖ニ去ルヲ茅部汐ト稱
 ス(寒流ノ末派ナラシ)夏鯧ハ茅部汐ヲ利トシ秋鯧ハ潮流ニ大ナル關係ナシ漁塲ノ
 優劣ヲ概論セハ砂原村ヲ最トシ尾白内村、森村、之レニ亞キ落部川口稍廣濶ノ漁塲
 アリ鷺の木以西ハ地嶮ニ岸深ク地曳網ニ適セス魚群亦密ナラス兒鯨ハ春彼岸ノ
 候沖合ヲ通過スルコトアルモ漁ニ上ラス本郡ニ洄游スル魚群來去ノ方向ハ初期

惠山岬ヨリ來リ秋ハ灣内ヨリ沖ニ去ルヲ例トス

尾札部村沿岸ノ東半部ハ斷崖峙チ地曳網ヲ下スノ沙濱ニ乏シ木直、ぼん木直二川ノ注ク處礫石交錯ノ濱地アリ僅ニ小網ヲ下スヘキ劣漁場アリ西半部字一本木ヨリ臼尻村界ニ至ル間ハ夏秋二季ニ渉ル漁場ニシテ魚群密集セリ就中八木の澤、尾札部川ノ間ヲ最可トス但海底暗礁アリ渚濱礫石大規模ノ曳網ヲ用フ可ラス臼尻村及熊泊村中亦地曳網漁場アリ臼尻灣ハ辨天島アリ風ヲ遮リ船艇ヲ維クニ便ナリ熊泊村字歌濱ハ區域狹隘ニシテ暗礁ヲ存シ良好ノ漁場ニアラス鹿部村ノ東方熊泊ニ接スル地ハ巖石海ニ峙チ漁場ニ適セス字龜泊ヨリ砂原村ニ至ル間ハ漁場斷續セリ即チ出來澗ノ東、たかもり、本別ノ漁場アリ澗ノ西、といめき川ノ附近ハ區域廣潤ナラサルモ地曳網漁場ト爲スニ足レリ砂原、掛澗、尾白内、森、鷺の木、蛇谷、石倉、落部ノ八村ハ漁場項背相接シ各村ノ入會漁場ナリ砂原ノ一端内浦灣ニ斗出シ對岸遙ニ繪鞆岬ト相對シテ内浦灣ノ門關ヲ爲スヲ沙崎ト云フ白沙平原至ル處良漁場ニ乏シカラス漁民争フテ此ニ集マル沙崎以西海水深ク陸地ニ蝕入シ灣形ヲ爲シ森村ニ至テ止ム此間漁場ナラサルハ無シ森以西海岸再ヒ伸張シテ山越郡ニ連ル高臺後ニ迫リ海濱狹窄處々岩石横出シ河川ノ注ク所僅ニ漁場ヲ存ス全郡沿岸ノ延長凡ソ二十里主要ノ漁場ヲ舉クレハ

尾札部 一里四丁

白尻村 一里六丁

熊泊村 六丁

鹿部村 二里餘

砂原、森間 五里二十丁

鷺の木村 二里十五丁

落部村間 二里十五丁

膽振國

西、山越郡ニ起リ東、日高國界ニ終ル沿岸概テ平坦ニシテ地曳網ヲ下スヘキ地形ヲ有スルモ西部ハ山越郡ヲ除クノ外微々トシテ言フニ足ラス東部一半ハ頗ル旺盛ヲ極ム但内浦灣ニ瀕スル沿岸ヲ除ク外ハ舉灣ヲ缺キ風濤ヲ掩護スルモノナク加フルニ國ノ過半ハ太平洋ニ面シ東風及東南風ノ害ヲ被ムル多キハ本業ノ爲メ遺憾トスル所ナリ魚族ハ渡島ト異リ兒鯨ヲ主トス

山越郡 中央ニ黒岩ト名クル巨巖アリ其他ハ平沙連續地曳網ニ便ナリ惜ラシハ黒岩以北潮流急駛内浦灣ノ正衝ニ當リ夏季西風及東風屢起リテ漁事ヲ妨クルト魚群ノ洄游不定ニシテ密集セサルトノ遺憾アリ天然ノ地勢ヲ利用スルノ術ナシ黒岩以南遊樂部村ニ至ル間ハ沙濱ニシテ風害ヲ被ラス郡中最盛ノ漁場タリ特ニ山崎漁場ノ名アリ漁民ノ說ニ曰ク魚群且ラ沖合ニ滯留シ一時急遽近岸ヲ襲

フ洄游極メテ不定ニシテ來集ノ狀頗ル他地方ト其趣ヲ異ニセリト又此地ハ他ニ
 兼業ト爲ス可キ職業ナキヲ以テ常住ノ漁民少ク茅部郡ノ漁夫入稼場タルニ過キ
 ス沿岸ノ延長凡ソ十里
 虬田郡 辨邊村虬田村ニ多少ノ漁場アルモ地位灣畧ニ在リ洄游不定且ツ近岸
 ニ來ラス興廢常ナシ
 有珠郡 長流川口及西紋鼈村ニ漁場ヲ存スルモ漁業甚タ盛ナラス虬田郡ニ比
 スレハ稍可ナリ
 室蘭郡 舊室蘭村及室蘭灣内曾テ僅少ノ漁場ヲ存シタルモ現今ハ荒廢ニ屬ス
 近年繪鞆岬附近ニ於テ漁群ヲ認メ巾着網ヲ試漁シタルコトアルモ未タ漁場ト定
 ムルノ進歩ヲ見ス
 幌別郡 往時請負時代ハ稍盛行シタルモ維新以降中絶シテ明治二十二年ニ及
 ヘリ現今恢復ノ勢ヲ生シ數ヶ所ニ地曳網漁場新興セリ沿岸鷲別岬、らんぼっけノ二
 ケ所ヲ除ク外地勢平夷ナルモ近岸水淺ク沖合ノ海底ニハ往々堆沙聚積シテ地曳
 網ニ不便ナリ春夏ノ候ハ兒鯨ヲ主トシ秋季時ニ鯢ノ洄游スルコトアリ
 白老二郡 沿岸約ソ二十里漁場連絡シテ之ヲ郡別ト爲シ難シ所謂ル樽前漁場
 是レナリ白老郡あよる岬ヨリ地形漸次灣曲シテ弓狀ヲ爲シ勇拂村ニ至テ蝕入ノ
 最極ニ達ス西端ヨリ勇拂郡小絲魚村ニ至ル間ハ山脉里餘ノ外ニ起伏シ東漸スル

ニ從ヒ曠原平野ヲ控ヘ廣濶ナル乾塲ヲ有シ濱岸ハ一帶ノ白沙ニシテ地曳網漁塲ニ最モ適セリ就中白老郡敷生川口ヨリ勇拂郡勇拂川口ノ間ハ本業ノ夙トニ開發セル地ニシテ古來優等ノ製品ヲ出セリ潮流東西二派アリ流勢ノ強大ニシテ且ツ近岸ヲ洗フヲ東流トス其劇烈ナルニ當テハ漁網ヲ流失スルコトアリ西流ハ其勢強甚ナラサルニアラサレトモ多ク沖合ヲ通過スルヲ以テ甚シキ害ヲ感セス晩春孟夏ノ交東風及南風多シ此季節ハ兒鯨ノ來游ヲ主トス而シテ此魚族ノ性、風向ニ弱シ故ニ東南風ノ時ハ東行セントスル魚群風力ニ阻隔セラレテ濱岸ニ密集ス左レハ此風ハ寧ロ豐漁ヲ促スノ利アリト雖モ時ニ連吹シテ數旬ノ久ニ及ヒ暴威ヲ逞フシテ漁業ヲ害スルコト少ナシトセス秋季ハ北西間ノ風多シ此季節ハ鱈ノ洄游ヲ主トス而シテ此魚族ハ風向ニ逆フテ來游スルノ性アリ故ニ此風亦魚群ノ密集ヲ招クノ利アリ但惜ラクハ沿岸船舶ノ碇繫所ニ乏シク一朝猛烈ノ風起ル時之ヲ避クルノ便ナシ郡ノ東端鷓川口ニ近年地曳網ヲ試用シタルニ好望ノ結果ヲ收メ數統ノ新漁塲興起スルニ至レリ漁塲ノ全延長凡ソ十二里餘

日高國

西、沙流郡ニ起リ襟裳岬ヲ經テ十勝國界ニ終ル太平洋ニ枕ミ蒼海千里長風波ヲ揚ク易ク島嶼山嶺ノ掩護ナキハ漁業上ノ一恨事トス様似以西ハ地勢概テ坦夷ナルモ山脚ノ海ニ走入スル所暗礁多ク沿岸線ノ延長ニ比シ地曳網漁塲稀レナリ且ツ

沙濱ノ數里ニ連接スル地ナキヲ以テ一所ニ幾多ノ漁場ヲ存セス三四統ノ小漁場各所ニ散點スルノミ様似以東ハ嶮崖海ニ峙チ地曳網ニ適スル所極メテ少シ魚群近岸ニ來ラス沖網ヲ使用スルノ外望ナシ國中地曳網漁場ノ多キハ沙流郡ニシテ其地名ヲ舉クレハ佐瑠太村、門別村、波惠村、慶能舞村、賀張村是レナリ各郡ノ事狀概テ同一ナルヲ以テ下ニ其村名ヲ記シテ止ム

新冠郡ハ海底暗礁多キヲ以テ僅ニ高江村ニ漁場ヲ見ルノミ
 靜内郡下方村染退川口、捫別村、布辻村ニ數統ノ地曳網漁場ヲ存ス膽振以東ハ兒鯨ヲ主トスルコトハ前ニ記スル如キモ晩夏初冬ノ交鯨ノ來游スルコトアリ漁夫ノ說ニ往年ハ鯢ノ洄游尙ホ東方ニ及ヘリ今ハ則チ此地ニ止マルト

三石郡姨布村、梟舞村ニ數ヶ所ノ漁場アリ

浦河郡荻伏村、後邊戸村、井寒台村、浦河村、鞆後村、幌別村ノ沿海ハ地曳網ヲ用フルノ濱岸斷續セリ

様似郡ハ海岸盤礁滿布シ僅ニ四ヶ所ノ漁場アルノミ様似村ノ後背ハ地形灣入シテ風波ヲ避クルニ足ルノ漁場ナリ

幌泉郡ハ國ノ東端ニ在リ太平洋ニ斗出シ巖礁海ニ滿チ地曳網ヲ用フ可キ沙濱ハ僅ニ笛舞村、幌泉村、歌露村ノ一小部ニ在ルノミ主要漁場ノ延長ヲ舉クレハ

沙流郡 一里六丁餘

十勝國

新冠郡 六丁餘

静内郡 二里餘

三石郡 十八丁

浦河郡 一里十五丁

様似郡 二十五丁

幌泉郡 八丁

十勝國

廣尾當縁ノ二郡ニ止マル魚族ハ兒鯨ニシテ魚群殊ニ密集ス收獲時ニ反テ日高ヲ
凌駕スルコトアリ地曳網漁場トシテハ僅ニ五六丁ニ過キス廣尾郡茂寄村以東ハ
丘陵近ク海ヲ壓シ其下一條ノ狹沙濱ヲ通セリ

期 漁

第三章 漁期

漁期ハ六月ニ起リ十二月ニ終ルヲ例トス稀ニ五月ヨリ翌年一月ニ亘ルコトアリ
各地ノ季節ヲ左ニ表示ス

國名	郡區名	地名	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月
後志國	島牧郡										
渡島國	檜山郡										
	松前郡										
	上磯郡										
	龜田郡										
	茅部郡	自尾札部 至白尻									
	全郡	鹿部以東									
膽振國	山越郡										
	白老郡										
	勇拂郡										
日高國	沙流郡										
	浦河郡										
十勝國	廣尾郡										

漁期

備考 || ハ盛期ヲ示ス

洄游魚族ノ半ク年以上ニ達スル長漁期ヲ有スルハ本道中獨リ鯧アルノミ然レモ洄游不足ニシテ且ツ群團ノ厚薄、疎密、早晚ニ至テハ鯧ノ如ク必ス可ラサルコトアリ故ニ漁期ノ長短ヲ以テ直ニ漁業ノ盛否ヲ判ス可ラス又本業ヲ重要視セサルノ地或ハ他業ノ收利豊カニシテ本業ヲ起サハルノ地ハ假令ヒ魚群ノ洄游アルモ漁獲ニ從事セサルノ事情アルヲ以テ前表ニ由リ魚群ノ來否ヲ暴斷ス可ラス左ニ漁期ノ早晚盛漁ノ季節ヲ記ス

後志國及渡島國ノ西北部ニ魚群ノ來游ヲ認ムルハ五月ヨリ翌年一月ニ亘ルモ洄游不定且ツ群集密ナラス八月以降秋季ハ稍密集シ此地方ノ盛期トス

渡島國上磯郡ハ現今夏期ノ洄游稀レナリ十月十一月ヲ最盛期トス終期ハ前表十二月中旬ニ止メタルモ時ニ或ハ翌年一月ニ至リ豐漁ノコトアリ蓋シ如此ハ五七年ニ僅カ一回アルノミ魚群ノ散集ハ一日ニシテ去ルコトアリ十數日間滯留スルコトアリ

龜田郡ハ夏季ヲ主トスル處アリ秋季ヲ主トスル處アリ大森濱ヨリ湯川村ニ至ル各村及惠山岬ノ兩側尻岸内、稷法華ノ兩村ハ夏漁地トス文久ノ初年明治六七年ノ頃五月もの大群セリ近年ハ三五年ニ一回ノ洄游ヲ認ムレトモ其群甚タ密ナラス毎歲夏土用前後ニ始マリ盛漁ハ八月中旬ヨリ下旬ニ在リ秋土用ニ至レハ收獲殆

ト絶エ十一月ニ至リ鯧ノ來游アリ冬至後凡ソ十日間繼續ス明治十二三年頃マテハ魚群ノ來游アルモ冬至ヲ以テ終業ノ期ト定メタリ近年ハ其期ヲ延ハセリ古武井、根法華ハ郡中夏鯧ノ漁場トシテ著名ナリシカ近年ノ實況ニ徴スレハ寧ロ秋季漁地ニ變遷セルヤノ傾向アリ

秋季ヲ主トスルハ志苔村ヨリ戸井村ニ至ル各村ナリ汐首岬ノ東部ニ位スル地ハ八月上旬ニ始マリ十二月ニ終ル其盛期ハ十月下旬ヨリ終期ニ至ル間トス岬ノ西部ハ九月ニ始マリ十二月下旬ニ終ル而シテ十一月下旬以降ヲ盛期トス又稀レニ六月比五月もの洄游スルコトアリ汐首岬ノ附近ハ晚秋ニ至ラサレハ魚群岸ニ近カス盛期ヲ過キ十二月中旬以後豐漁ヲ得ルコトアリ上記ノ如ク西部ノ漁期東部ニ後ル、一因ハ西部ノ各村昆布採取業ニ從事シ初期鯧業ニ及フ能ハサルノ事情アレハナリ

茅部郡ハ夏季ヲ主トスルモ亦多少ノ變遷ナキ能ハス五月ものハ六月下旬ヨリ七月上旬ニ至リ始メテ洄游スルヲ常トスレトモ極メテ不定ナリ且ツ輓近ハ魚群密集セス盛期ハ七月中旬ヨリ夏土用後ニ在リ砂原、掛澗ノ各村ハ八月ニ至テ始メテ夏鯧ヲ漁シ中旬下旬ヲ盛期トス本郡各村ノ終期ハ頗ル遅速アリ鹿部村ハ十月下旬若クハ十一月上旬ニ在リ砂原、掛澗ノ二村ハ十一月下旬若クハ十二月上旬ニ在リ白尻、尾札部ノ二村ハ十二月下旬ニ在リ此二村ハ十月中旬以後ニ於テ夏季ニ優

ルノ豊漁ヲ利スルコトアリ蓋シ魚群來游ノ度數少キモ其群團頗ル密ナレハナリ
 膽振國山越郡以東ハ兒鯧ノ來游ヲ主トスルヲ以テ漁期稍早シ山崎漁塲ハ六月上
 旬ニ網ヲ下シ入梅前後ハ必ラス多少ノ漁アリ下旬若クハ七月上旬ヲ盛期トス中
 旬ニ至レハ漁獲頓ニ減ス是レ兒鯧ノ來游跡ヲ絶チ僅ニ鯧等ノ疎々洄游スルア
 ルノミ中旬以後秋季ニ繼續シテ漁業ニ從事スルハ一二ノ永住漁民アルノミ
 白老勇拂ノ二郡日高十勝ノ二國ハ入梅前後ヲ初期トス盛漁ハ七月上旬中旬ノ間
 ニ在リ下旬若クハ八月上旬ニ至レハ兒鯧ハ散去シテ鯧ノ交群來ルモ密集セス
 日高ハ素ト夏秋ノ交大漁アリ請負時代ハ十月マテ漁業ニ從事シタルモ近年洄游
 ノ變遷ト昆布業ノ繁盛ヲ來シタルトニ由テ漁期ヲ短縮シ八月ニ終業スルモノ多
 シ白老勇拂ノ地十月十一月ニ至テ漁獲スルコトアリ

第四章 漁船漁具及漁法

漁船

種類名稱及使用ノ區域 鯧漁船ノ總數ハ明治廿六年ノ調査ニ據レハ二千五百五十六艘ニシテ其種類ハ胴船、胴海船、持符船、磯舟ノ四種トス而シテ胴船ハ其積量最モ大ナルヲ以テ專ラ大地曳網漁業ノ網舟(方言網たき舟)ニ使用シ胴海船ハ太サ胴船ニ次キ渡島地方ニ於テ小地曳網漁業ノ網舟ト爲シ或ハ建網ノ起シ舟ニ用井膽振國勇拂地方ノ如キ高濤起リ易ク且ツ營業規模ノ大ナル處ニ於テ冲揚船ニ使用ス持符船ハ各地主トシテ冲揚船ニ使用ス磯舟ハ魚見及通ヒ船ニ使用ス構造及大小 胴海ハ二枚棚造ニシテ他ノ三種ハ一枚棚造トス其詳細ハ續出スル鯧漁業調査報告ニ記シ此篇ニ省畧シテ只構造ノ寸尺ヲ左ニ表示ス

地名	船種		
	長	幅	
上磯郡	六尋二尺	八尺五寸	
龜田郡	六尋二尺	八尺五寸	
茅部郡	六尋三尺	八尺五寸	
山越郡	六尋三尺	九尺	
勇拂郡	六尋三尺	九尺	
胴海船		持符船	
長	幅	長	幅
五尋二尺	五尺三寸	四尋二尺	四尺六寸
五尋四尺	五尺五寸	四尋三尺	四尺四寸
五尋一尺	五尺	四尋二尺	四尺三寸
磯舟		長	幅
三尋三尺	三尺五寸	三尋	三尺五寸
三尋二尺	三尺二寸	三尋	三尺五寸
三尋	三尺五寸	三尋	三尺五寸

廣尾郡	幌泉郡	様似郡	浦河郡	三石郡	靜内郡	新冠郡	沙流郡	漁船
十尋	六尋三尺	九尋三尺	九尋	九尋	八尋	六尋	八尋	
九尺八寸	一丈二尺五寸	九尺五寸	九尺二寸	九尺	八尺五寸	八尺五寸	八尺	
六尋一尺	六尋	五尋	五尋	五尋	七尋	五尋	七尋	
六尺四寸	八尺二寸	四尺五寸	五尺	五尺五寸	七尺	五尺八寸	五尺五寸	
五尋三尺	五尋三尺	五尋	五尋	四尋二尺五寸 五尋	四尋二尺五寸	三尋	五尋	
五尺	五尺	五尺	四尺三寸	四尺三寸	四尺三寸	四尺	四尺	
	四尋	四尋	三尋 四尋	三尋	三尋二尺五寸		三尋	
	四尺	三尺五寸	三尺六寸	三尺五寸	三尺七寸		三尺	

備考

長ハ敷ノ全長ヲ示シ幅ハ腰當ノ部ヲ示ス
○印ハ船ノ全長ヲ示シタルモノナリ

漁船材料 敷ハ桂、山毛櫟、榿、樺ヲ用井かいぐ即チ側板ハ椴、五鬚松、杉等ナリ杉ヲ除クノ外各地其附近ノ山林ヨリ伐採ス近年漸ク缺乏ヲ生シ渡島地方ハ杉材ヲ秋田、青森、巖手ノ諸縣下ニ仰シモノ多シ持符船以下ノ小船ハ其地方ノ材料ヲ以テ供給スルヲ得獨リ龜田郡ハ茅部上磯函館等ヨリ購入ス

漁船新調費 各地普通使用スル漁船ノ價格概テ左ノ如シ

地名	船種	胴	船	胴	海	船	持符	船	磯	舟
----	----	---	---	---	---	---	----	---	---	---

法漁及具漁漁船

又各船種ノ附屬品新調費ヲ示セハ左ノ如シ

一 胴船附屬品 金貳拾壹圓

內譯

漁船	船名	艘數	稱	數量	價額	記	事
		廣尾郡	百三拾	廣尾郡	百三拾	五圓	三拾六圓
	幌泉郡	百五拾五	幌泉郡	百五拾五	八圓	三拾圓	貳拾圓
	浦河郡	百三拾	浦河郡	百三拾	八圓	貳拾圓	拾八圓
	靜內郡	百	靜內郡	百	六圓	貳拾五圓	拾八圓
	新冠郡	百五拾	新冠郡	百五拾	三圓	貳拾五圓	拾八圓
	沙流郡	百九拾八	沙流郡	百九拾八	三圓	貳拾八圓	拾圓
	勇拂郡	百三拾	勇拂郡	百三拾	四圓	貳拾八圓	拾圓
	山越郡	百九拾七	山越郡	百九拾七	六圓	三拾五圓	拾圓
	茅部郡	百五拾	茅部郡	百五拾	六圓	三拾五圓	貳拾圓
	龜田郡	百五拾	龜田郡	百五拾	六圓	三拾圓	貳拾圓
	上磯郡	百三拾	上磯郡	百三拾	六圓	三拾圓	貳拾壹圓

船ヲ代用スルトキハ一挺金貳圓

告 報 業 漁 鯧

漁 船		
卷 網	鋪 網	鋪
一	一	一
本	本	挺
八	貳	四圓五拾錢
圓	圓	
重量凡九貫目 菩提樹皮 <small>しな</small> ヲ用ヒテ製シ長サ三十五尋徑凡一寸 同右製長サ四十尋徑凡二寸		

一 洞海船附屬品
 內 譯
 金五圓三拾錢

一 持符船附屬品		
鰻 權	舳 權	鋪 網
一	六	一
挺	挺	本
壹圓拾錢	壹圓貳拾錢	壹圓
錢	錢	圓
鰻ヲ代用スルキハ一挺金壹圓五拾錢		

一 持符船附屬品
 內 譯
 金三圓九拾錢

一 持符船附屬品		
鰻 權	舳 權	鋪 網
一	四	一
挺	挺	本
九圓拾錢	壹圓	五拾錢
錢	圓	錢
鰻ヲ代用スルトキハ一挺金壹圓		

法漁及具漁船漁

一磯舟附屬品 金五拾錢

內譯

車	名	稱	數	量	價	格
			二		五	拾
						錢

漁具

漁具ハ地曳網、行成網、角網、巾着網、小舌網、入手網、攢網等ナリ之ヲ構造及用途ノ性質ニ依テ曳網、建網、旋網、敷網、抄網ノ五類ニ區別スルヲ得ヘシ即チ地曳網ハ曳網ニ屬シ行成網角網ハ建網ニ屬シ巾着網小舌網ハ旋網ニ屬シ入手網ハ敷網ニ屬シ攢網ハ抄網ニ屬ス慣行最モ久シク用途最モ廣キハ地曳網ナリ其他ハ地形海流等ノ關係ニ由リ特別ナル地方ニ限リ用フルモノトス即チ建網ハ沿岸ノ地形險惡ニシテ斷崖海ヲ掠メ海底岩石多ク地曳網ヲ使用スル能ハサル地ニ用ウ小舌網攢網ハ汐首地方ヲ主トス入手網ハ明治二十年始メテ房州ノ製作ニ倣ヒ函館港内ニ限リ之ヲ使用セリ巾着網ハ米國製ニ倣ヒ明治二十一年本廳ニ於テ新網ヲ製シ苦小牧附近ニ於テ始メテ之ヲ試用シ其操縱運用ノ方法ヲ地方漁民ニ教示シ且ツ漁具ヲ貸與シ經驗ヲ重テシメント欲シタレトモ漁夫不熟練ノ爲メ得失相償ハサルヲ口實トシテ僅ニ一年ニシテ之ヲ廢絶セリ靜内郡捫別村梯某明治二十三年ヨリ使用スルモ未タ他ニ傳播セス曾テ卷網、揚線網ヲ試用セシモノアリシモ好果ヲ收ムル能

ハスシテ止ム函館港ニ於テ棒受網ヲ試ミタレトモ入手網ノ流行セルト共ニ廢絶セリ又寛政ノ末年ヨリ刺網ヲ使用セシモ今ハ廢絶シテ其跡ヲ留メス

網地 二十五節、二十三節、二十一節、二十節、十四節、十節、二寸目網等トス二十節以上ヲ方言小目ト稱フ產地ハ陸中國水澤産最モ多シ其幾節網ト稱スルハ網地五寸間ノ結節數ニシテ横目百掛ク長サ五十尋ヲ一反ト曰フ重量ハ網目ノ大小及用途ニヨリ差異ナキ能ハス通例左ノ如シ

袖網用二十一節網一反三貫二三百匁

囊網用同上 三貫八百匁乃至四貫二三百匁

袖網用十四節同上 二貫七八百匁乃至三貫二三百匁

網目粗ニシテ網絲大百目掛ト稱スルモ其實九十目乃至九十五目掛トセルヲ以テ網目ノ大小長短不齊ノ點アレトモ價格ノ廉ト慣用ノ久シキ容易ニ之ヲ改メサルノミナラス反テ之ヲ稱揚スルモノ多シ越後産ハ網絲大ニシテ使用久シキニ堪ユルハ第一位ニ居ルト云フ其他上總國銚子伊勢紀伊ノ產品ヲ試用スルモノアリ絲質良好ニシテ強韌ナルハ遠ク水澤産ノ上ニ居ルモ盛ニ之ヲ使用スルノ氣運ニ至ラス

曳網類

地曳網

收獲ノ大部分ヲ占ムルハ此網ナリ大網、中網、小網、すどまわし、潤網、ノ名稱アリ形狀ノ大小ニヨリ名ヲ附シタルニ過キス一個ノ囊網ト二張ノ袖網ヨリ成ル囊網ハ中央ニアリ袖網ハ囊網ノ兩側ニ結合シテ魚群ヲ驅リ囊網ニ追窮スルノ裝置ナリ袖網ノ囊網ト相接スル部分ハ網目ヲ細密ニシ其幅ヲ廣フシ末端ニ至ルニ從ヒ漸次其目ヲ疎ニシ且ツ其幅ヲ減殺ス囊網ノ目ハ更ニ一層細密ナルヲ要ス袖網ト接スル部ハ袖網ト同一ノ幅ヲ有セサルヘカラス大網ト稱スルハ片袖ノ長サ百五十尋内外小網ハ概テ五十尋潤網ハ二十五尋乃至三十尋ヲ通常トス裝置ノ大體ハ前記ノ如クナレトモ小部分ニ至テハ地方至ル處小差ナシトセス長短廣狹殆ト一軌ニ出ツルモノナシ左ニ大網構造ノ圖解ヲ示ス(第四圖参照)

一囊網ハ二十一節網百目掛ケ十五尋切りノモノ十六反乃至十八反ヲ綴合シテ一大囊トナシ其兩端ノ周圍ニ徑三分大ノ麻繩ヲ以テ連珠狀ノ輪ヲ縫接シ一條ノ綱ニテ編綴シ之ヲ分合スルノ用ニ供ス方言之ヲはっびやくト稱ス漁獲ノ多寡ニ由リ前記ノ如キモノ一個乃至三四個ヲ連綴シテ使用ス一囊ノ容量凡六七十石

一せんがんハ太キ麻繩ヲ以テ長サ三尺幅三尺ニ編成シ囊網口ノ上下端ニ添付シタルモノニテ袖網ヲ連綴スルニ當リ浮子綱及沈子綱ヲ結ヒ留ムル處トス上部ニ大浮子(方言かむいあばト云フかむいハ蝦言大ノ義ニシテ即チ大浮子

ノ義ナリ)ヲ付ス長サ二尺幅四寸厚サ四寸ノモノ一個若クハ長サ一尺五寸幅四寸厚サ二寸五分ノモノ二個下部ニハ大沈子二個ヲ付ス一個ノ重量凡七八百匁

一袖網ハ一張ノ全長百五十尋取扱ノ便ヲ計リ之ヲ十五尋宛ニ分截シ十枚トス
 囊網ニ接近スル第一脇三枚ハ二十一節八反第二脇三枚ハ全七反第三脇二枚ハ十節網三反第四脇二枚ハ二寸目網二反トス以上ノ網地二寸目網ハ横五十目掛ク其他ハ百目掛クニシテ悉ク横目ニ用フ網地ヲ浮子網及沈子網ニ連綴スルニハ囊網ニ接近スル部分ハ三割五歩トシ末端ニ至ルニ從ヒ漸ク減殺シテ二割五歩ノ割合ヲ以テ縁網ニ縮綴(方言いせ)シタル後浮子網及沈子網ニ連綴シ袖網ノ末端ニ三四尺ノたち木ヲ付シテ網ヲ壁立セシムルノ用トシ之レニやまづなヲ付シ其末端ニ曳網ヲ結着ス縁網ハ太キ麻絲ニテ編成シタル二寸目網七目掛ノ網地トス地方ニヨリ小目網ノ下ニ十節網又ハ十四節網半反ヲ附スルモノアリ

一浮子網(方言あばだな)ハ最モ緊張力ニ堪ユルモノヲ要ス從來專ラ徑八分乃至一寸大ノ菩提樹皮、蔴、柳皮、梭櫚等ヲ以テ作りタル網ヲ用ヒシカ近年多ク徑四分乃至六分大ノ「マニラ」網ヲ用フ蓋シ重量ヲ減シ緊張力ニ堪へ使用ニ便ナルヲ以テナリ長サ百五十尋トス

- 一 浮子ハ桐材ヲ最良トスルモ本道之ヲ産セス府縣ヨリ高價ヲ以テ購入スルノ不便アルニ由リ椶材ヲ用フルモ多シ長サ八寸乃至一尺幅三寸厚サ一寸兩端ニ各二個ノ小孔ヲ穿チ菩提樹皮製ノ細繩ヲ通シ浮子綱ニ結束ス其間隔囊網ニ接スル部ハ一尺末端ニ至ルニ從ヒ疎隔シテ二尺トス
- 一 沈子綱(方言あしだな)ハ浮子綱ト同フシテ稍細小ナリ徑五六分ノモノ一條ヲ用フレトモ捲縮シテ網裾ニ纏綿スルノ恐アルヲ以テ徑三分大ノ「マニラ」綱二條ヲ用フルモノアリ
- 一 沈子(方言あし)ハ石、鉛或ハ陶器ヲ用フ重量ハ用品ニヨリ異リアルモ石ヲ用フトキハ一個ニ付三十匁乃至六十匁ヲ準例トス鉛、陶器ハ中央ニ穴ヲ穿チ麻繩ヲ以テ沈子綱ニ結附ス石ヲ用フルニハ實子繩ヲ以テ沈子綱ニ卷キ付ク囊網ニ近キ部分ハ每三尺ニ一個ヲ附シ末端ニ至レハ四尺ニ一個ヲ附ス
- 一 曳綱ハ菩提樹皮、棕櫚若クハ苧麻ヲ以テ製ス徑一寸乃至一寸二分ノ三子撚綱ヲ用フ一條ノ長サ三十尋網一統ニ二十條乃至三十條ヲ備フ
- 一 浮標ハ二斗量ノ空樽ニ三四尺ノ綱ヲ以テ囊口及立元ニ結約シテ目標トス
- 一 錨ハ囊網繫留ニ用ユ一挺ノ重量凡十貫目ノモノ二挺ヲ備フ
- 一 「マニラ」綱徑六分長サ三十尋ノモノ四五條ヲ備ヘ囊網繫留ノ用ニ供ス
- 左ニ大綱、中綱、小綱ノ總長及反數ヲ表示ス

告 報 業 漁 鯷

漁 具

三十四

地名	大地		中地		小地	
	總長	一脇反數	總長	一脇反數	總長	一脇反數
上磯郡	三〇〇 <small>等</small>	八 <small>反</small>	二〇〇 <small>等</small>	六 <small>反</small>	一五〇 <small>等</small>	五 <small>反</small>
龜田郡	二〇〇 <small>以上</small>	七	一五〇 <small>以上</small>	七	一〇〇	四
茅部郡	三〇〇	七	二〇〇	六	?	五
山越郡	三〇〇 <small>以上</small>	九	二八〇 <small>以上</small>	七	二〇〇 <small>以上</small>	六
勇拂郡	三三〇 <small>以上</small>	八	二五〇 <small>以上</small>	七	?	?
沙流郡	三二〇	八	二四〇	六	?	?
新冠郡	二八〇	八				
靜内郡	二八〇	七				
三石郡	三二〇	七				
浦河郡	三二〇	七				
様似郡	三二〇	七				
幌泉郡	三二〇	七				
廣尾郡	二四〇	六	一八〇	六	一八〇	六

備考 總長トハ俗稱打廻ハシヲ謂フ一脇反數ハ小目網反數ノミヲ掲ク
 漁網保存法及使用年限 鯷漁期ハ長日ニ亘ルト盛夏ニ際スルトニ由リ網罟ノ
 修理ハ西北海岸ノ鯧漁地ニ比スレハ頗ル周到セリ漁期ニ達セハ網ヲ日乾シ新網

ハ七回乃至十回古網ハ三四回澁液ニ浸シテ使用スルコト三四回ノ後又浸染スルコト一回終ニ七八回ノ多キニ至ル漁業ヲ了レハ淡水ニテ洗滌シ汚物及鹽分ヲ去リ日乾ノ未修理ヲ加ヘ更ニ澁液ニ浸スコト二三回ノ後乾燥シテ庫中ニ藏ム又漁期中ト雖_此業ノ閑ナルトキハ棧棚ヲ設ケテ日乾スルコトヲ怠ラス此棧棚ヲ方言ハセト唱フ

染料ハ多ク槲皮ヲ用フ其法六七貫目ヲ煮釜(容量一石二三斗)ニ投シ淡水ニ注キ煎煮スルコト二晝夜(減水セハ水ヲ加フ)ノ後槲皮ヲ去リ網地ヲ浸入ス一回煎煮シタル槲皮ハ之ヲ碎摧シ新皮ヲ混シテ更ニ煎煮スル前ノ如シ一釜ノ澁液ニテ袖網二三枚ヲ染ムヘシ一漁期ニ要スル費用凡三拾圓又府縣ヨリ輸入ニ係ル塊澁_{たぎしよ}ヲ用ユルモノアリ淡水一斗ニ五斤ノ割ヲ以テ沸煮溶解セシメテ染料ニ充ツ其費消高袖網一枚ニ凡五斤ヲ要ス

槲皮ハ漁村ノ附近地ニ産出スルアルモ其量裕カナラス多クハ岩手縣ヨリ輸入ス塊澁ハ宮城縣ノ輸入ニ係ル

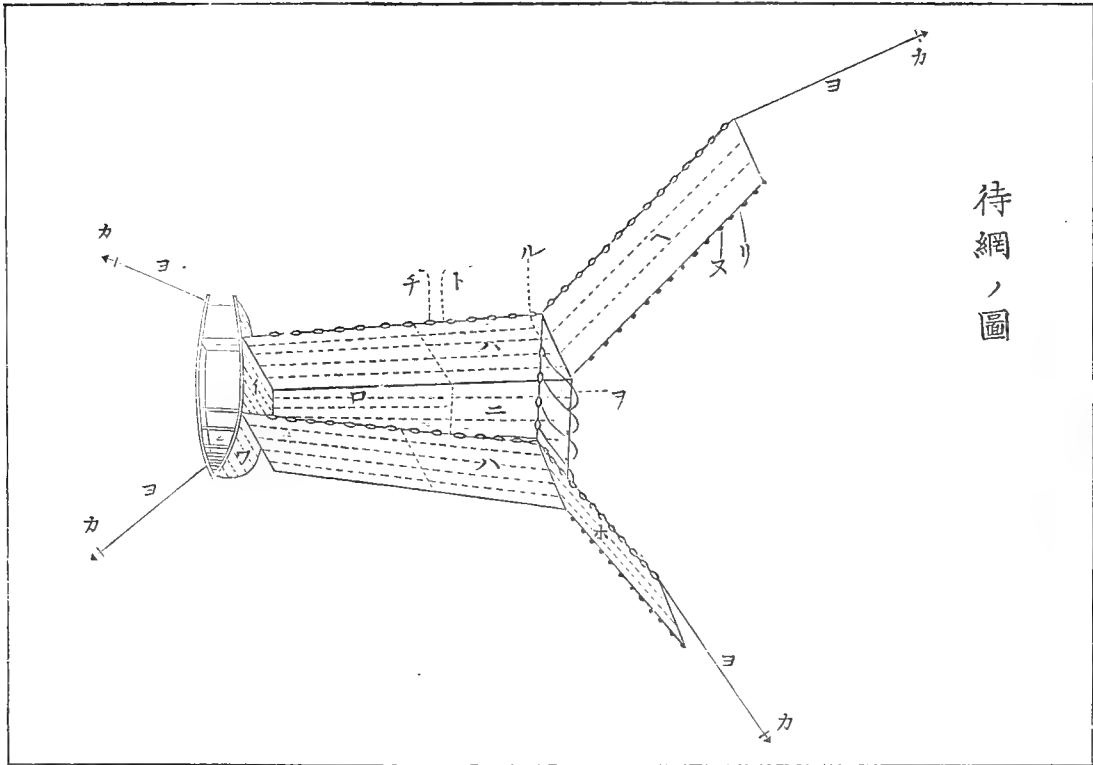
使用年限ノ長短ハ保存法ノ精粗、使用ノ繁閑ト毎年一部ノ新調ヲ爲ストニ由リ一様ナラサルモ地曳網ハ必ラス四五枚ヲ毎歲新調スルヲ以テ一統二十枚ト假定セハ四ヶ年ニシテ一新スルノ割ナレハ一年ノ修理費用ハ全額ノ四分ノ一ト見テ可ナラソ左ニ地曳網一統新調費ヲ示ス

告 報 業 漁 鯿

地曳網一統 漁具 金九百拾七圓九拾錢
 內譯

品名	數量	價額	價格	記事
二十一節	千八十尋	貳百七拾圓	壹圓四	囊網用十五尋切リ十八反モノ四個
二十一節	二千四十尋	三百四拾圓	壹圓六	袖網用
十節	二百五十尋	四拾八圓	壹圓五	袖網用
二寸目	百七十五尋	貳拾五圓	壹圓七	袖網用
浮子網	三百三十尋	貳拾八圓九拾錢	壹圓	「マニラ」網徑六分百七十斤百斤拾七圓
沈子網	三百三十尋	貳拾貳圓五拾錢	壹圓	「マニラ」網徑五分百五十斤百斤拾五圓
浮子	六百枚	九圓	壹圓五	
曳網	三十本	六拾圓	貳圓	苧麻製一本長サ三十尋重量凡八貫目
網	十二貫目	貳拾四圓	貳圓	網からみ、はなつき用等
金引	二十五貫目	五拾圓	貳圓	線網用
菩提樹皮	五十貫目	拾圓	貳圓	浮子附、沈子附、はつびやく、はがいちよう、腰
樽	十個	壹圓五拾錢	拾錢	浮標用二斗入樽
錨	二挺	九圓	四錢	囊網緊留用一挺重量凡十貫目
「マニラ」網	四本	拾圓	貳圓	囊網緊留用徑六分一本長サ三十尋
轆轤一式		拾圓		

待網ノ圖



建網類

建網ニ角網、行成網ノ二種アリ共ニ鯨漁業ニ
 使用スルモノト同形ナルヲ以テ本篇之ヲ省
 キ鯨漁業調査報告ニ譲リ行成網中ノ片口網
 ヨリ變更シタル待網ハ松前、函館、龜田地方ニ
 行ハル、一種ノ網罟ナレハ特ニ之ヲ示ス
 待網 魚群ノ洄游ヲ追フテ移轉シ魚ノ網
 ニ入ルヲ待ツ與行二十四尋網口ノ廣サ七尋
 深サ六尋袖網ノ一方十五尋一方二十尋ヲ普
 通トス圖解下ノ如シ

- 一建揚(イ)ハ二十節網百目掛ク五尋二尺五寸切リ十反トス
- 一小舌(ロ)ハ同二十二尋切リ二十反トス
- 一前線(ハ、ニ)ノ中(ハ)ハ十四尋切リ各五反(ニ)ハ二寸目網五十目掛十四尋切リ六反トス

以上ノ網地ヲ縫綴シテ身網トナシ其上

漁具

縁ニ徑凡一分ノ麻絲ニテ編ミタル一寸目七目掛ケノ縁網ヲ附シ三割五分ノ割ヲ以テ浮子網ニ縮綴ス

一 袖網(ホ、ヘ)ハ實子製三寸目五十目掛ケノ網地ヲ用ヒ(ホ)ハ二十尋切り三反(ヘ)ハ

二十六尋切り三反トス浮子網及沈子網ニ三割ノ割ヲ以テ縮綴ス

一 浮子網(ト)ハ身網ノ部ハ棕櫚又ハ菩提樹皮製ノ徑八分大トシ袖網ノ部ハ藁製徑一寸二分大トス

一 浮子(チ)ハ椶材製長サ一尺幅四寸厚サ一寸五分身網ノ部ハ七寸隔ニ袖網ノ部

ハ一尺隔ニ浮子網ニ結着ス

一 沈子網(リ)ハ藁製徑一寸大トス

一 沈子(ヌ)ハ石ヲ藁繩ニテ包ミ一個ノ重量百五六十匁三尺隔ニ沈子網ニ結着ス

一 渡リ網(ル)ハ棕櫚製徑八分大トス

一 口曳キ繩(チ)ハ麻製徑四分長サ七尋ニシテ四條ヲ要ス

一 棹網(ワ)ハ二十節網十七尋切り十六反トス

一 錨(カ)ハ袖網及棹網繫留ニ供ス一挺ノ重量七貫目乃至九貫目四挺ヲ要ス

一 錨綱(ヨ)ハ「マニラ」綱徑六分大トス

左ニ新調費額ヲ示ス

待網一統 金貳百三拾四圓壹錢

法 漁 及 具 漁 船 漁

内 譯

品 名	數 量	價 額	價 格	記 事
二十節網	七百八十尋	百三拾圓	壹圓二寸	建揚小舌梓網用
十四節網	百八十尋	四拾圓	壹圓二尺五寸	前線用
二寸目網	八十四尋	拾貳圓	壹圓二寸	前線用
實子網	百四十尋	七圓	三圓十寸	袖網用
浮子網	七十尋	貳圓三拾錢	內三十尋ハ身網用棕櫚製壹圓貳拾錢四十尋ハ袖網用藁製壹圓拾錢	
沈子網	四十尋	壹圓	壹圓五寸	藁製徑一寸
浮子	二百枚	三圓	壹圓五寸	網からみ、はなつぎ用等
網 芋	四貫目	八圓	貳圓	縁網、はっぴやく、渡り網、口曳き用等
金引麻其他繩類		五圓		七貫目乃至九貫目
錨 網	四本	拾圓七拾壹錢		「マニラ」網徑六分一本長サ三十尋

旋網類

小舌網

一ニ 筥網ト名ク旋網ノ一種トス形狀ハ行成網ノ垣網ヲ除キ袖網ヲ延長シタルモノニ似タリ魚群ヲ圍繞シテ身網ニ追驅漁獲スルノ裝置トス網ノ大小及局部ノ構造ハ各地少異ナシトセス左ニ圖解ヲ示ス(第五圖參照)

- 一 建揚(イ)ハ二十一節網五尋切り七反ヲ縦目ニ縫綴シ上縁ハ浮子網五尋ニ縮綴シ下縁及側部ハはっぴやくヲ以テ小舌ニ縫綴ス
- 一 小舌(ロ)ハ二十一節網十尋切り九反ヲ縦目ニ縫綴シタルモノ四枚ヲはっぴやくニ頼テ連綴シ兩邊ヲ浮子網十一尋ニ縮綴ス
- 一 あご(ハ)ハ二寸目網四尺切り幅九尺ヲ小舌ノ前部袖網ノ間ニ連綴シ恰モ地曳網ノせんがんと其用ヲ同フス
- 一 袖網(ニ)ハ左右長サヲ異ニス左翼ハ八十尋アリ十尋宛ニ分截シ一脇ヨリ四脇迄ハ二十一節網十五尋切り六反五脇ヨリ八脇迄ハ同五反ヲ横目ニ用ヒ下縁ニ十四節網百目掛半反ヲ縫綴シ上下兩邊ニ縁網ヲ附ス各十尋ノ浮子網及沈子網ニ縮綴シ浮子網ノ末端ニ長サ凡六十尋ノ網ヲ附ス右翼ハ七十尋結構左翼ト同シ但八脇ヲ缺キ長サ凡二十尋ノ網ヲ附ス
- 一 浮子網ハ棕櫚製徑凡六七分トス
- 一 沈子網ハ菩提樹皮製徑七八分トス
- 一 浮子ハ椶材ニシテ長サ八寸小舌ノ部ハ四寸隔ニ袖網ノ部ハ八寸隔ニ結束ス
- 一 沈子ハ二三寸ノ石ヲ二尺五寸隔ニ附ス
- 一 棹網(ホ)ハ二十一節網十八尋切り十八反ヲ縫綴ス
- 一 錨一挺ノ量七貫目乃至十貫目三挺ヲ要ス

法 漁 及 具 漁 船 漁

一 錨 綱 徑 六 分 ノ 「 マ ニ ラ 」 綱 ト ス
 左 ニ 新 調 費 額 ヲ 示 ス
 小 舌 綱 一 統 金 四 百 九 拾 壹 圓 九 拾 錢
 内 譯

品 名	數 量	價 額	價 格	記 事
二十一節網	千九百八十尋	三百三十圓	六圓 ニ	建揚、小舌、前線、袖網、棹網用
十四節網	二百二十尋	五拾圓	四圓 ニ	裾網用
二寸目網	一尋二尺	貳拾錢	七圓 ニ	あこ用
浮子網	二百尋	八圓	棕櫚	
沈子網	百六十尋	九圓	一圓 ニ	菩提樹皮四十五貫目
浮子	五百枚	五圓	一圓 ニ	網からみ、はなつぎ用等
網	七貫目	拾四圓	一圓 ニ	絲網用
金引	十貫目	貳拾圓	一圓 ニ	浮子附、沈子附、はっびやく用等
菩提樹皮	二十貫目	四圓	貳圓 ニ	七貫目乃至十貫目
錨	四挺	拾六圓		
錨網	四百尋	三拾五圓七拾錢		「マニラ」綱徑六分二百十斤百斤金拾七圓

漁 法

漁具ノ異ナルニ從ヒ漁法亦異レリ下ニ各種ノ漁法ヲ記ス

漁 法

地 曳 網

魚見ノ事、地曳網ハ建網ノ如ク魚群自ラ來テ網ニ入ルヲ待ツノ類ニアラスシテ魚群ノ集合スル處ヲ追躡シテ之ヲ撈取スルモノナレハ洄游ノ方向及速度、群團ノ斷續、疎密、魚體ノ大小、動作ノ銳鈍等ヲ正確ニ鑑識スルコト最モ肝要ナリ其方法ハ左ニ示ス

一海面ノ水色ニ由テ識別スル方法、魚族ノ群集スル處ハ他ノ海面ト水色ヲ異ニス漁民之ヲ色を揚げるト云フ天候ニ由テ其色一樣ナラス深ク斯業ニ熟鍊シタルモノニアラサレハ容易ニ判定シ難キモ其一例ヲ舉クレハ

魚群疎ナルカ若クハ魚體小ナルトキハ水面淡褐色ヲ呈シ魚群密ナルカ若クハ魚體大ナルトキハ濃紫色ヲ呈ス

一魚族ノ動作ニ由テ識別スル方法、魚群ノ稀疎ナルトキ又ハ游泳ノ状態ニヨリ色ヲ揚ケサルコトアリ此時ハ動作ニ由テ識別スルノ外術ナシ

はね(魚ノ水面ニ跳躍スルノ方言ナリ)ハ魚ノ種類ニ從ヒ其狀ヲ異ニス即チ兒鯧ハ尾ヲ露ハシ水面ヲ撲ツモノ、如ク鯧ハ活潑ニシテ音響劇シ鯧ハ水面ニ唸鳴シ或ハ身ヲ躍ラシ水面ニ飛跳ス

はなあぶ(魚群ノ吐出スル水泡ノ浮上スルノ謂ナリ)ハ群團近岸岩礁ノ間ニ潜ムトキ最モ多ク之ヲ見ル

右ノ外鷗ノ飛翔スル鯨ノ近海ニ出沒スル皆以テ魚群來集ノ徵トナス
 以上ノ觀察ヲナス爲メ魚見櫓(第一圖參照)ヲ設ケ遠望シテ魚群ノ來去ヲ偵察セシ
 カ近年ハ魚見船ヲ出シテ之レニ代フ漁事進歩シ色ヲ揚ルヲ待スシテ漁獲ニ從事
 スル爲メナリ
 魚見船ハ磯舟或ハ持符ヲ用フ船頭、下船頭(一ニおやじト云フ)若クハ經驗アル漁夫
 乗船シ沖ヲ往來シ魚群ヲ認メタルトキハ旌旗又ハ他ノ物ヲ振リテ網船ニ沖出ノ
 合圖ヲ爲ス之ヲまねを揚げるト云フ夜間ハ松明ヲ焚テ之レニ代フ競争ノ甚シキ
 地ハ別ニ暗號ヲ定メ置クコトアリ
 網船ノ事、地曳網ヲ船ニ載積スルニハ少クモ漁夫四人ヲ要ス二人ハ櫓ニアリテ
 あば方ヲ取り他ノ二人ハ舳ニアリテあし方ヲ取り船ノ中央即チ胴ノ間ニ積ミ入
 ル之ヲ網をたくト云フ網船ハ網ヲ積ミ汀渚ニ在テ沖出ノ命ヲ待ツ若シ魚群來游
 ノ狀ナキトキハ其一半ヲ解キ一半ハ搭載ノ儘陸上ニ曳キ上ク置クコトアリ
 網ヲ掛ケル事、魚群洄游ノ報ニ接スルヤ二十名内外ノ漁夫網船ニ乘リ船頭ハ船
 首ニ翹リ遙ニ魚群進行ノ方向ヲ熟視シ機ヲ見テ網端ニ一條ノ網ヲ附シ出網トナ
 シ網船(漁夫三四名乗込ミ網船ニ從ヒ進行ス又網船ヲ用井ス出船ノトキ豫メ網ヲ
 陸ニ維クモノアリ)ヲシテ陸ニ輸送セシムルト同時ニ一人ノ漁夫ハ櫓ヲ執リテ
 船ノ進行ヲ司トリ他ノ十六名ノ漁夫ハ舳權ヲ鼓シ階軋欸乃命ニ從ヒ進行甚々敏

ナリ此間下船頭以下ノ漁夫ハ漁船進行ノ方向ニ從ヒ右舷或ハ左舷ヨリ漸次ニ網ヲ下ス魚群稀疎ナレハ弦形ニ下シ範圍ヲ廣濶ナラシム之ヲ開掛ト唱フ魚群密集セルカ隣網ト接近シテ餘地乏キトキハ半圓形ニ網ヲ下シテ範圍ヲ狹隘ナラシム之ヲ縮掛ト云フ凡網ヲ下スノ順序ハ先ツ右翼ヨリ投下シ右へ旋リテ左翼ニ及フヲ本掛ト稱シ普通ノ法トス魚群左方ヨリ來ルカ若クハ網船ノ左方忽焉トシテ魚群ニ遇フトキハ船ヲ左ニ轉シ左翼ヨリ右翼ニ及ホスコトアリ之ヲ後掛ト云フ既ニ網ヲ下シ了レハ網端ノ一網(入網)ヲ延ハシテ陸ニ達セシメ漁夫ハ上陸シテ二群トナリ一ハ出網ヲ曳キ一ハ入網ヲ牽曳ス波濤靜穩潮流劇烈ナラサル處ハ轆轤ヲ安置シ之レニ據テ牽引スルトキハ大ニ勞力ヲ省クノ便アルモ波ノ動搖ヲ受ケ緩急ニ應シテ自在ニ操縦スルヲ得サルト網ノ流動ニ從ヒ常ニ位置ヲ轉換スルノ不便ヲ免レス

船頭若クハ下船頭ハ船ニ在リテ網ノ正中即チ囊元ニ至リ浮子綱ニ船ヲ繫キ囊口ヲ看守スルノ傍左右兩翼ノ牽曳ニ注意シ緩急ノ度ヲ察シ陸上ニ信號ス一例ヲ舉レハ左翼緩ナレハ左手ヲ舉クテ急ニ曳クヘキヲ示ス右翼急ニ過クレハ右手ヲ斜ニ垂レテ緩ニ曳クヘキヲ示シ又左翼右翼ニ接近スルヲ要スルトキハ兩手ヲ右ニ振リ兩翼相近クヲ要スルトキハ兩手ヲ前ニ振ル等ナリ夜中ハ燈火ヲ以テ之レニ代フ

魚群ハ屢袖網ヲ傳フテ逸去スルノ虞アリ故ニ袖網ノ將サニ陸ニ達セントスル迄ハ兩立元ニ各一艘ノ船ヲ附シ漁夫ヲシテ袖網ノ内側水面ヲ撲キ其音響ヲ以テ逃逸ヲ拒カシム

曳網既ニ曳キ終ハレハ袖網ヲ曳キ左右兩翼徐々相接近シテ囊元ノ岸ヲ隔ツル凡三四十間ニ至リ網圍益狹隘魚群狼狽シテ隙ヲ得テ逃逸セントス於是浮子網沈子網ニ最モ注意ヲ加ヘ兩翼各一二人赤身海ニ投シ漁網ヲ整理シ以テ些ノ間隙ヲカラシメノコトヲカム(或ハ魚群ヲシテ自ラ囊中ニ陷ラシメノカ爲メ漁夫ヲシテ網圍ノ水面ヲ撲タシムルモノアリ)囊元二十間内外ニ達セハ更ニ慎重ヲ加エ沈子網ノ海底ヲ離レサルニ注意シ囊元ニ達セハ更ニ沈子網ヲ曳キ終ニ魚群ヲ囊中ニ容ル以上ノ動作一日五回ニ及フコトアリ

魚ヲ囊ニ容ル、事、魚群既ニ囊中ニ入レハ繩ヲ以テ囊口ヲ緊結シ袖網ト囊ノ結合はかいヲ解キ囊ハ錨ヲ附ク五六十間乃至百間ノ沖ニ放置シ更ニ網ヲ附シテ一端ヲ陸ニ留ム沖出シノ長短ハ漁獲ノ多寡ニ由ルモ概テ水深二三尋ノ處ヲ撰フ大漁ニ遇ヒ一囊ニ餘ルトキハ第一囊尾へ更ニ第二囊ヲ連繫ス其法第一囊ノ中央ヲ固シ束テ其尾端ノはっぴやくト第二囊口ノはっぴやくトヲ結合シ第一囊ノ緊結ヲ解キ第二囊ニ遷シ其口ヲ約シ第一囊トノ結合ヲ解キ繩ヲ附シテ沖ニ放置スル前記ノ如シ第三囊ヲ添付スル亦右ノ如シ

沖揚ノ事、囊中ノ魚ヲ船ニ移シテ之ヲ陸上ニ輸送スルヲ沖揚ト云フ即チ囊船(囊ヲ保持スル船ニシテ胴海船又ハ胴船ヲ用フ)ノ一舷ヨリ五六尺ヲ隔テ、汲船(魚ヲ汲ミ取りテ陸ニ輸送スル船ナリ持符船ヲ用フ)ヲ据ヘ兩船間ニ五六尺ヲ隔テ二本ノ木ヲ横タヘ結約シテ船ノ離合ヲ防キ中間ニ囊口ヲ開キ汲船ニ在ル漁夫一人大攢網ヲ以テ魚ヲ抄ヒ他ノ漁夫數名ハ助力シテ之ヲ汲船ニ移ス滿載セバ結約ヲ解キ濱岸ニ輸送シ船ト共ニ沙上ニ曳キ上ケ竹籠又ハもつこニ魚ヲ盛り魚坪なべニ運送ス此時間ハ最モ短促ヲ要シ三四十人ヲ使役スルニ至ルモノアリ又魚囊ノ儘陸ニ捲キ揚クルコトアリ漁夫四五人水ニ入り八九人ハ陸ニ在テ協力シテ囊ヲ牽引ス此便法ハ漁獲極メテ少キカ又ハ風波ノ極メテ平穩ナル時ニアラサレハ行フコト能ハス

地曳網一統ニ使用スル漁船漁夫ノ數、漁網ヲ搭載スル船ハ網ノ大小、天候ノ何如ニヨリ一樣ナラサルモ大網ハ概テ胴船ヲ用ヰルヲ常トス其他ノ用ニ供スル船種ハ渡島國ハ持符船二三艘磯舟一艘膽振日高ノ二國ハ胴海船二三艘持符船或ハ磯舟一二艘ヲ備フ漁夫ノ人員亦一定ナラス大網ハ二十四五名ヨリ四十名、中網ハ二十名左右、小網ハ七八名ヨリ十五六名ヲ普通トス

待網

沿岸六七尋ノ水深ヲ有スル海面ニ於テ使用ス人員凡二十名網船(網ヲ下シ終レハ

起シ船トナル一艘棹船一艘ヲ要ス魚群岸ニ沿フテ進行スルヲ認メハ身網ヲ中央トシ短キ袖網ヲ斜ニ沖ニ向ケ長キ袖網ヲ陸ニ向ケテ張下シ魚群ノ衝路ヲ約ス建揚ニ棹船ヲ繫キ錨ヲ下シテ機ノ至ルヲ待ツ魚群ハ袖網ニ遮キラレ且ツ之レニ沿フテ身網ニ入ル於是起シ船ハ直チニ網口ニ來リ口曳繩ヲ取リテ網底ヲ繰リ起シ魚ヲ建揚ニ追迫シ攔網ヲ以テ之ヲ船ニ移ス若シ豐獲ナルトキハ囊網又ハ棹網ニ容ル此網ハ漁期中一定ノ地ニ常置セス魚群ノ來去ニ由テ之ヲ移轉シテ使用スルヲ特點トス

小舌網

胴船ニ網ヲ搭載シ漁夫十七八人乗り組ミ別ニ一艘ノ魚見船ヲ從へ沖合ヲ往來シ魚群ヲ認ムレハ其進行ト潮流ノ方向トヲ察シ右翼網ノ末端ニ繫ケル手綱ニ錨ヲ付シタル浮標ヲ結着シ一所ニ投入シ漸次網ヲ下シテ魚群ヲ圍繞シ網ノ末端ニ至レハ又網ヲ投シ先ニ投入セシ浮標ヲ取り網ヲ繰リ兩翼ヲ一船ニ集ム此時魚見船ハ身網ノ周圍ヲ巡察シテ網ノ紛亂ヲ整正ス魚群ヲ圍ミ了ルトキハ網船ノ舳艦ニ各一挺ノ錨ヲ投シ翼網ヲ繰リ揚ケ魚群ヲ驅逐シ身網ニ入ラシメ終ニ建揚ニ至レハ攔網ヲ以テ之ヲ船ニ移ス豐獲ノ兆アレハ別ニ棹網ヲ準備ス

攔網

構造ハ極メテ簡易口徑僅ニ四尺内外ノ囊網ニ長キ柄ヲ附シタルモノニテ魚群非

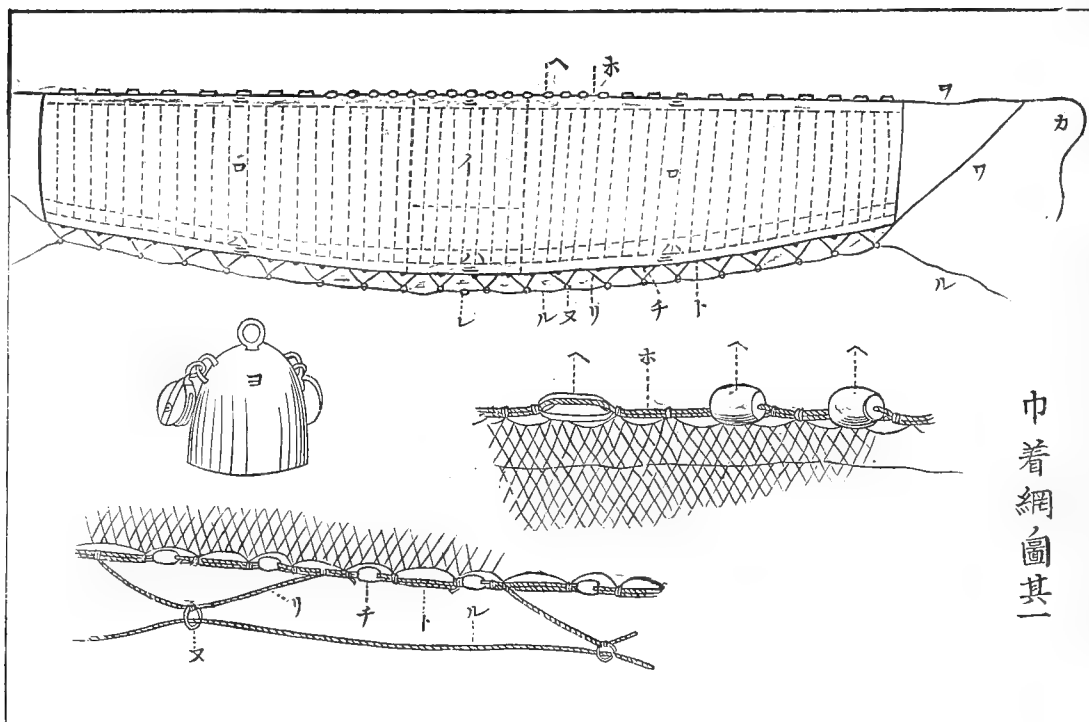
常ニ密集スルトキニアラサレハ此漁具ノ効用ヲ見ス汐首地方主トシテ之ヲ用フ
 蓋シ中ノ汐ノ奔馳ニ壓セラレ岬角岩礁ノ間ニ漂蕩スルノ際始メテ此具ノ特効アリ
 リ之ヲ使用スルハ漁夫一人婦女少童ノ助手一人ヲ從ヘ磯舟ニ棹シ岩礁ノ間ヲ往
 來シ攪網ヲ以テ舟ニ抄ヒ移スノミ一回ノ群集能ク十餘石ノ收獲アリト秋季ハ四
 五日間モ此密集ニ遭遇スルコトアリ其盛ナルニ方テハ無數ノ漁船舶艦相啣ミ先
 ナ争フテ漁獲スルノ狀ハ頗ル壯觀ヲ極ムト云フ

近年千葉縣巖手縣ニ於テ改良成績ヲ得タル巾着網、改良揚線網ハ頗ル望ヲ屬スルニ
 足ルヘキヲ以テ參考ノ爲メ左ニ附記ス

巾着網、 範ヲ米國巾着網ニ取リ之レニ多少ノ變更ヲ加ヘタルモノナリ即チ魚
 取ヲ中央トシ左右同長ノ袖網ヲ附シ下端ニ數十ノ環ヲ設ケ之レニ網ヲ貫通シ
 テ成ル網ノ全長二百二十尋魚取ノ部二十尋左右ノ袖網各百尋末端ノ幅二十二
 尋ナリ圖解スル左ノ如シ

- 一 魚取(イ)ハ二十一節網八十五目掛ク三十八反ヲ縱目ニ用ヒ上下二部ヨリ成ル
- 上部ハ二十二尋一尺切りノモノヲ縫綴シ以テ袖網二十一尋一尺ニ縮綴シ下
- 部ハ同五尋一尺五寸切りノモノヲ全長ノ袖網ニ縫綴ス
- 一 袖網(ロ)ハ二十節網八十五目掛二十六尋二尺五寸切りノモノ百六十一反トス
- 一 裾網(ハ)ハ魚取部十節網百目掛ク二尋切りノモノ十四反袖網部ハ七節網百目

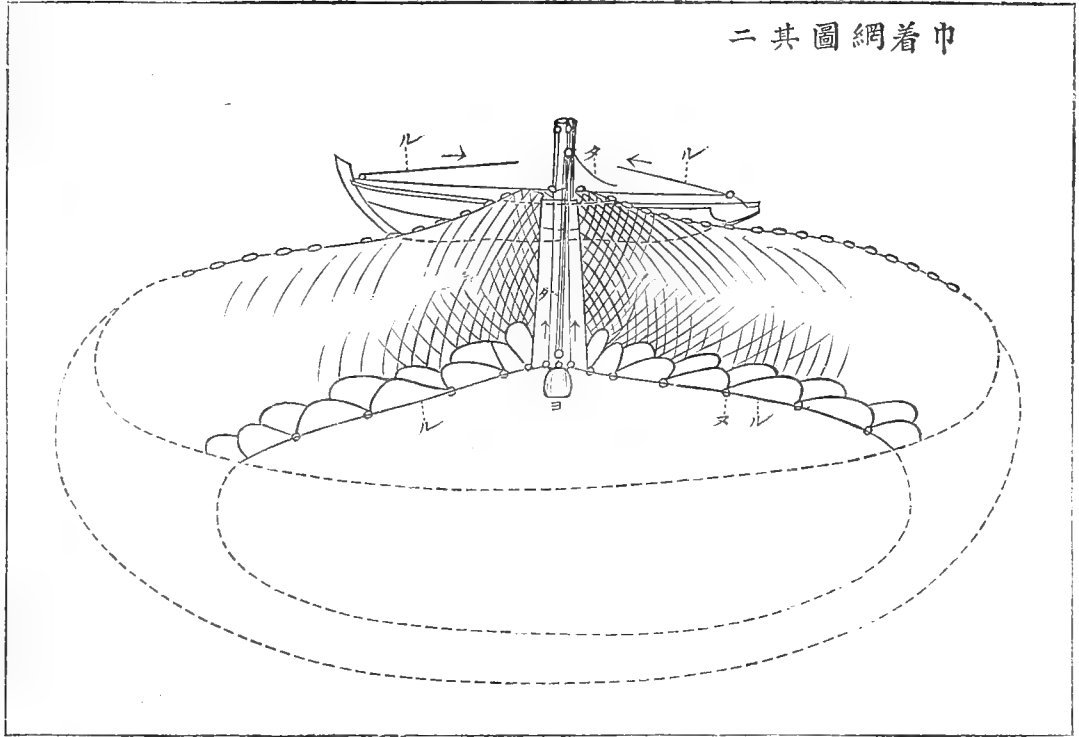
漁法



巾着網圖其一

掛ク二尋二尺五寸切リトス
 一縁網(ニ)ハ網ノ上下兩邊ニ附シ上部ハ十節
 網二尺切リ下部ハ三寸目網二尺切リトス
 以上ノ網地ハ總テ縦目ニ縫綴シ魚取部ハ四
 割袖網ノ魚取ニ接スル二十尋ハ三割五歩次
 ノ二十尋ハ三割五歩其次ノ三十尋ハ三割最
 末ノ三十尋ハ二割五歩ノ割ヲ以テ浮子網及
 沈子網ニ縮綴ス故ニ魚取部ハ袖網ニ比スレ
 ハ緩垂セルヲ以テ絞リ網ヲ牽引スレハ自ラ
 囊狀ヲナスノ装置ナリ取扱ノ便ヲ圖リ魚取
 ヨリ二十尋ヲ隔テはっぴやくヲ附シ網ヲ兩分
 スルモノ多シ
 一浮子網(ホ)ハ棕櫚製徑五分トス
 一沈子網(ヘ)ハ麻製徑二分五厘撚ノ強カラザ
 ルヲ要ス
 一浮子(ト)ハ桐材ニシテ圓平ノ二種アリ圓浮
 子ハ長サ五寸徑二寸五分魚取及兩袖網各

二 其 圖 網 着 巾



漁 法

- 四十尋間ニ五寸隔ニ附シ平浮子ハ長サ一尺幅四寸一尺ノ間隔ヲ以テ四十尋以外ノ兩端ニ附ス
- 一 沈子(チ)ハ鉛製ノなつめ形ニシテ一個ノ重量三十二匁二尺五寸隔ニ沈子網ニ附ス
- 一 環繩(リ)ハ麻製徑二分五厘長サ四尋中央ニ環ヲ結着シ沈子網四尋毎ニ一條ヲ附ス
- 一 環(ヌ)ハ真鍮製徑四寸一個ノ重量百二十五匁總數二十五個ヲ要ス
- 一 絞リ綱(ル)ハ「マニラ」綱徑五分長サ三百六十尋其中央ニ鐵製ノ樞環(レ)ヲ附シ左右、撚リヲ異ニシ以テ捲縮シテ網裾ニ纏綿スルヲ妨ク
- 一 もきり綱(ヲ、ワ、カ)ハ藁製徑八分(ヲ、ワ)ハ各二十尋(カ)ハ四十尋トス
- 一 分銅(ヨ)ハ鐘狀ノ鑄鐵ニシテ重量四十貫目上部ニ分銅綱ヲ結着スル環ヲ備へ兩側ニ

漁船漁具及漁法

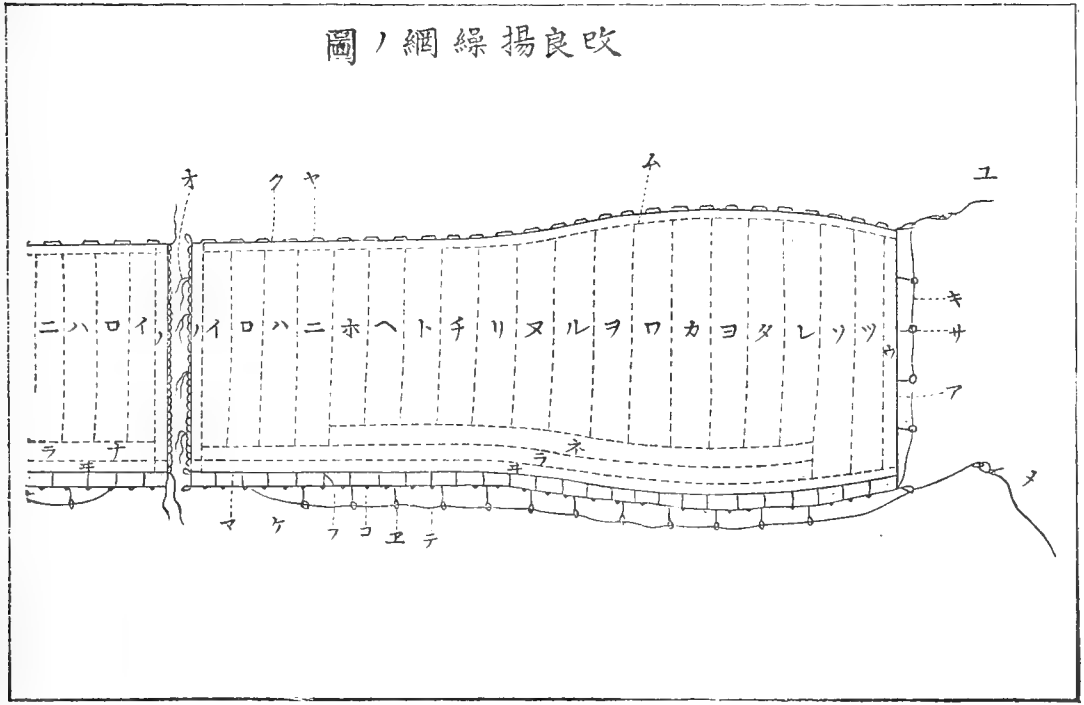
各一個ノ滑車ヲ附ス

一分銅網(タ)ハ徑五分ノ「マニラ」網ヲ用フ長サ八十尋トス

一滑車ハ普通船舶用ノモノトス

使用法、網船二艘(一ハ高サ凡八尺上端弓狀ニ彎曲シタル木製ノ車柱ヲ樹テ滑車ヲ上部下部ニ二個、中央ニ二重滑車一個ヲ設ク)漁夫各十二人魚見船一艘ニ漁夫三人乗込ミ網ヲ分載シテ準備ヲナス魚群ヲ認メタルトキハ二船一處ニ集リ網ヲ連綴シ魚群ノ進路及潮流ノ方向速力ヲ測リ先ツ網ノ中央即チ魚取ノ部ヲ兩船ノ間ニ下シ左右ニ分レテ網ヲ下シツ、群團ヲ圍繞シ了レハ網ノ兩端ヲ一船(車柱ヲ樹タル船ニシテ圖ノ如シ)ニ集メ直ニ分銅ニ附セル滑車ニ左右ノ絞リ網ヲ通シテ之ヲ垂下シ絞リ網ノ兩端ヲ車柱ノ上端ナル滑車ニ掛ク末端ヲ船ノ舳艫ニ在ル滑車ニ通シ衆力ヲ集メ絞リ網ヲ引曳スレハ網ノ下部ハ分銅ノ下ニ縮蹙セラレ殆ト囊狀ヲナス於是分銅及環ヲ船中ニ引揚ク袖網ヲ繰リ魚群ヲ魚取リニ馳リ集メ攔網ヲ以テ船ニ抄ヒ移シタル後絞リ網ヲ海中ニ投シ撚リヲ戻シ網裾ノ縮蹙セルヲ伸シ再ヒ使用ノ準備ヲ爲ス此網ヲ使用スルニハ進退舉止敏捷ニシテ且ツ規律正シク操縦スルヲ要ス必竟漁獲ノ豐約ハ熟鍊何如ニ由ル極メテ精通セルモノハ網ヲ下スヨリ分銅ヲ揚クル迄二十分乃至三十分時ヲ出テスト云フ

圖ノ網繰揚良改



漁
法

改良揚繰網、千葉縣漁民ノ考案ニ成ル在來ノ揚繰網ノ裾ニ巾着網ニ使用スル金屬ノ環ヲ附シ絞リ網ヲ貫通シテ牽引ヲ容易ナラシムルノ裝置ナリ全網ノ長サ百十尋幅末端ニ於テ十四尋ヲ普通トス中央ヨリ二分ス左右ノ構成同一ナルヲ以テ一部ヲ圖解ス

(イ、ロ、ハ、ニ)ハ各二十節網八十五目掛ク五尋切リ二十四反トシ(ホ)ハ同二十二反(ヘ)ヨリ漸次一反宛ヲ増シ(ク)ニ至リテ三十反トナル(カ)ハ同三十反(ヨ)ハ同二十九反(タ)ハ同二十八反(レ)ハ同二十六反(ソ)ハ十二節網百四十目掛ク一尺八寸切リ八反半(ツ)ハ二寸三分目網百目掛ク五反(チ)ハ十二節網百目掛クニシテ長サ六十五尋トス以上ノ網地ハ總テ横目ニ用ウ(ナ)ハ十二節網百四十目掛ク一尺四寸切リ五反(ラ)ハ二寸三分目網五十目掛ク二尺五寸切リ三十一反ヲ共ニ縦目ニ用ウ(ム、ウ、ヰ)ハ縁網ニ

- シテ(ム)ハ一寸五分目網五目掛ク長サ六十七尋(井)ハ同六十八尋(ウ)ハ同七目掛ク長サ十七尋トス(ノ)ハ九分目蛙股網縦七目長サ二十尋トス以上ノ網地ヲ縫綴シ(イ)ヨリ(リ)迄ハ三割五分(ヌ)ハ四割(ル)ヲハ四割五分(ワ、カ、ハ)ハ五割(ヨ、タ)ハ四割五分(レ)ハ四割ノ割ヲ以テ浮子綱(ク)及沈子綱(ク)ニ縮綴ス
- 一 せばそ(オ)ハ麻製長サ一尋一ク所ニ二條宛四五ク所ニ附シ使用ノ際兩袖綱ヲ連綴スルノ用トス
- 一 浮子綱(ク)ハ棕櫚製徑四分長サ五十五尋トス
- 一 浮子(ヤ)ハ桐材製長サ七寸幅三寸厚サ一寸五分乃至二寸ノモノヲ一尋ニ五個ノ割合ヲ以テ浮子綱ニ附ス其數凡二百七十個ヲ要ス
- 一 もみぢ繩(マ)ハ麻製徑三分長サ六十三尋トス
- 一 沈子綱(ク)ハ麻製徑四分長サ五十七尋トス
- 一 くもで(フ)ハ麻製徑三分長サ八寸、一尺六七寸ノ間隔ヲ以テもみぢ繩ニ結附シ沈子綱ヲ連結ス其數凡百三四十條
- 一 沈子(コ)ハ鉛製なつめ形ニシテ一個ノ重量三十三四匁總數二百七十八個ヲ要ス魚取部ヲ疎ニシ末端部ヲ密ニシ沈子綱ニ附ス特ニ(カ)ヨリ(ワ)ノ間ヲ重カラシム
- 一 裾環(エ)ハ徑二分ノ真鍮線ヲ以テ徑二寸ノ環ヲ製シ麻製徑二分長サ二寸ノ繩

ヲ以テ沈子網ニ結着ス總數四十個
 一 絞リ網(テ)ハ麻製徑六分長サ五十八尋一端ヲ沈子網ニ結ヒ裾環ヲ貫通シテ網
 裾ヲ縮蹙スルノ用ヲナス
 一 緣網(ア)ハ麻製徑三分長サ十四尋一尺
 一 緣環(サ)ハ裾環ト同一ノモノ四個ヲ附ス
 一 ヤズ繩(キ)ハ麻製徑三分長サ十四尋一尺緣環ヲ貫通ス
 一 あばした網(ユ)ハ麻製徑三分長サ二十尋トス
 一 大手網(メ)ハ藁製徑一寸七分長サ二十五尋
 使用法、漁船幅六尺二寸乃至六尺五寸二艘ニ網ヲ分載シ漁夫十九人ヨリ二十
 四五人ヲ一群トナシ漁場(水深七尋乃至十尋沙底ノ處ヲ適當トス)ニ達スレハ兩
 船網ヲ以テ舳艫ヲ約シ網ヲ連テ魚群ノ進行及風向潮流ノ方向強弱ヲ察シ兩船
 ヲ解キ網ヲ下シテ魚群ヲ圍繞シ網ノ末端ニ至レハあばした網及大手網ヲ海中
 ニ投シ兩船共二舳ヲ網ノ内側ニ向ケ相接近スレハ又舳艫ヲ結束シあばした網
 及大手網ヲ引曳シ網ノ末端ニ及ヘハ浮子ヲ船床ニ繫結シヤズ繩ヲ引揚ケ舷端
 ニ懸ケ急ニ絞リ網ヲ曳ク網ノ下部ハ縮蹙シテ船側ニ來ルヘシ於是網ヲ兩端ヨ
 リ漸次繰リ揚ケ終レハ兩船ノ結約ヲ解キ魚ヲ魚取ニ聚メ攪網ヲ以テ船ニ移ス

第五章 收獲及製造

收 獲

明治四年ヨリ十二年ニ至ル九ヶ年間ノ平均收獲高ハ一萬二千六百三十五石ナリ最豐漁ノ年ト雖トモ二萬石ヲ超過セシコトナシ不漁ノ年ハ平均收獲ノ半ニ達セサルアリ十三年ヨリ二十一年ニ至ル九ヶ年間ハ收獲増加シ平均三萬四百六十五石ニ達ス其二萬石ヲ下リシハ十四年ノミ二十二年以降ハ又増益シテ少キモ三萬七千石ヲ下ラス多キハ十一萬五千石ニ及ヒ平均五萬八千八百四十七石ノ巨額ニ達セリ之ヲ明治十二年前ニ比スレハ正ニ四倍六分強ノ増加ナリ其原因ハ渡島國ニ網數ノ著シク増シタル結果ニ外ナラス試ニ網數増加ノ狀ヲ查スルニ明治九年ハ百二十二統ニ過キサリシニ二十年ハ二百六十六統トナリ二十六年ニ至テハ實ニ五百六十九統ニ達シタリ左ニ國別累年收獲表ヲ示ス

國別累年收獲表(石ヲ以テ單位トス)

年 別	國 別	後 志 渡 島 膽 振 日 高 十 勝 合 計
明治四年	同	九五九
同 五 年	同	二、六八五
同 六 年	同	一、三一七
同 七 年	同	一、二五八
		九、三四五
		五、八〇九
		四、〇八七
		七、〇五二
		四、〇四三
		四、一四八
		一九、〇八二
		一一、一六九
		九、四九三

收 獲

收 獲 及 製 造

之ヲ國別トシテ見ルトキハ前表ノ如ク輓近長足ノ進歩ヲ爲セルモ郡區別トシテ見ルトキハ却テ退歩セルモノアリ左表之ヲ徴スヘシ

郡區別累年收獲及價額表 其一 (右側ヲ收獲高トシ石ヲ以テ單位トス左側ヲ價額トシ圓ヲ以テ單位トス)

同 廿五年	四	二八、一六二	八、四二九	三、二七一	二五八	四〇、一二四
同 廿六年	一九三	七六、五三四	二四、三六二	一四、〇七八	三七四	一一五、五四一
平均	三二三	四一、三四二	一一、〇七六	五、三八九	七二七	五八、八四七

國名	郡區名	年次	
		四年	五年
後	美國郡		
	積丹郡		
志	壽都郡		
	島牧郡		
渡	爾志郡		
	檜山郡		
合計	合計		
	合計		
		一、四七〇	一、〇〇四
		二六五	七一九
		三三、二九五	三三、二九五
		九六八	九六八
		一一二	一一二
		二〇五	二〇五
		九九三	九九三
		二二八	二二八

收 獲

造 製 及 獲 收

郡 區 別 累 年 收 獲 及 價 額 表 其 二

收 獲	後			名 國 郡 區 名 年 次	十 勝 廣 尾 郡 當 緣 郡 合 計	高							
	島 牧 郡	壽 都 郡	積 丹 郡			美 國 郡	合 計	幌 泉 郡	樣 似 郡	浦 河 郡	三 石 郡		
				十六年	二、五三八 九五九								
				十七年	五四、〇九八 一九、〇八二					二、〇六七 七、〇五三			一、〇四八 三、一三三
				十八年	四五、六〇八 一一、一六九					一七、八一四 四、〇四三			二、六九〇 六〇九
				十九年	三九、〇三五 九四、九三三					一七、五八六 四、一四八			二、五八九 六〇九
		六 三		二十年	七四、〇五四 一六、九七五					二六、一二七 五、八一五			一、一四三 五、一三九
				廿一年	五一、八七〇 一五、六七八					二〇、三六七 五、九九七			四、七三一 一、三九二
	二八三 五四			廿二年	二四、五三三 八、六三三	一、八七〇 六〇九				八、一六一 二、八四八	一〇 四		二、六七一 九一五
	四、二〇〇 八四〇	二五 五	一六八 二一	廿三年	九九、六四三 一八、六六四	五、一四七 九七六	五、一四七 九七六			二八、二八三 五、四〇八	六〇一 一三六	二、四四六 四四六	一、二四二 八、六七七
	一、九一六 三九八		三五〇 五〇	廿四年	一〇六、〇五六 一三、〇六〇	七五七 八一	七五七 八一			三三、六三八 三、五一三	一一五 一一	九六八 一〇四	八、三三九 八九七
				廿五年	四〇、四、一〇一 四一、三三六	一、一三一 一三〇	一、一三一 一三〇			六三、一五三 七、二六八	二〇、二七 三三三	八〇四 九二	一七、一一八 八五三
	九四三 一七八		三四 五	廿六年	一〇六、五八〇 一八、五五七	三七九 五四	三七九 五四			三一、五六〇 四、四六九		八二六 一一七	八、五八〇 一、二二二
				廿七年	七八、八六四 二四、八四二	一三九 二八	一三九 二八			一七、八七六 四、一一〇		六六二 一三〇	四、八〇五 一〇、四四四

告 報 業 漁 鯿

膽					島					渡					志	
白老郡	幌別郡	室蘭郡	有珠郡	虻田郡	山越郡	合計	茅部郡	龜田郡	函館區	上磯郡	松前郡	檜山郡	爾志郡	合計	瀬棚郡	
		三九七	八八	二二	九六四	一三九、八一五	二、一五八	七、八五五	一〇九、〇八四	二四、二九〇	六、〇〇九	三、二〇四	六六五			
		一一七	四四		六八八	八六、〇一〇	四、一五六	一、〇四八	七、八四八	二四、七〇三	三、一八八	八一三	二四三			
					七〇三三	五〇、〇七二	一五、七三四	五、二八七	七、八二一	七、八二一	六、二四六	一、五〇〇	四四八			
		三〇	一〇	四四	五八一八	九三、二二三	一七、四九〇	一六、九七四	四七、四八二	八、三三三	二、三四九	三、七二一	七一九			
三七四	六三		一〇〇	二五	二、二〇二	一七五、七二〇	二七、九三〇	八、八九九	四三、四〇九	七、五九五	六、三六七	九、五一四	八四二	六三		
六九一	一三六	一五	五三	一一八	三〇、二二三	五八、四九五	九、九五〇	一、七三四	一、九一七	三、一〇三	一、四八九	二、五九四	四九五			
一、〇四四	一五〇		四八九	七八	九、六一五	一六一、〇七六	二八、〇二七	一四〇、六五	二、四七五	二〇、〇九九	四、二八五	一、三九九	二〇七	二八三	五四	
一、六〇四	二二四		三九	七	四、八七七	一六六、二九九	二七、二五五	七、九三五	一、二四六	一六、四〇四	二、二八四	七、〇三四	一、二六三	四、六〇五	四四	
四、九一九	七三五	七一			六、一三三	二四〇、三三三	四六、七三三	二七、五〇三	四、七八一	二四、〇四〇	二、九七〇	二〇、四三五	三、六〇一	二、二九〇	二四	
五、七五九	九二八	九〇			一、一七八	一七一、四三八	二八、一六二	一七、九四五	二、九二八	一六、三一一	二、二四九	六、〇四八	三、八五五	二四	二四	
一八、九七七	三、一一九	九六五	六〇五	一一〇	一五、〇七六	四七、一四二	七六、五三四	九七、四八五	一四、三三六	二六、一五三	四六、六三六	九、七二五	三五、一九三	一、〇三九	一〇	

國、膽振國ノ内山越郡ハ魚油ヲ算入セス
 本表ニ據リ明治二十年以降二十六年ニ至ル七年間ヲ平均シ沿岸線延長一千間ニ
 對スル産額ノ割合ヲ見ルニ其三百石以上ニ及フモノハ獨リ龜田ノ一郡アルノミ
 左ニ各郡ノ割合ヲ示ス(北海道鯧收獲一覽圖參觀)

産 額 ノ 割 合	郡 區 名
二 十 石 以 下	幌泉郡、有珠郡、檜山郡、爾志郡、瀨棚郡、島牧郡
五 十 石 以 下	廣尾郡、様似郡、新冠郡、幌別郡、松前郡
百 石 以 下	浦河郡、靜内郡、白老郡、山越郡
百 五 十 石 以 下	三石郡、沙流郡
二 百 石 以 下	茅部郡
三 百 石 以 下	勇拂郡、函館區
三 百 石 以 上	龜田郡

備考 來遊不定産額僅少ノ郡ハ之ヲ省略ス

魚族來集ノ多寡ニヨリ自ラ前記ノ區別ヲ生スト雖モ收獲ノ豊ナル地ハ概シテ網
 數亦多キヲ以テ一網ニ對スル收獲高ニ至テハ各地甚シキ差異ナシ左ニ之ヲ示ス

上磯郡 百五十石乃至二百石
 函館區 百石乃至二百石

收 獲 及 製 造

龜田郡 尻岸内、假法
華二村ヲ除ク 百石乃至二百石

龜田郡 尻岸村
假法華村 二百石乃至三百石

茅部郡 百五十石乃至二百石

山越郡 百五十石内外

勇拂郡 二百石乃至三百石

日高國各郡 百五十石乃至二百石

備考 本表ハ大地曳網一統ノ普通收穫高トス

豐漁ノ年ハ一期ノ收穫五六百石ヨリ千石内外ニ達スルコトアレトモ常例トシテ見ル可ラス又一日ノ最多獲ハ二百石内外ニ及フコトアレトモ八十石乃至百石ヲ以テ大漁トス沙首岬附近ノ建網ハ一期百石左右笹網ハ百五十石内外攜網ハ十石ヨリ十五石ノ間ニ在リ函館區ノ八手網ハ千四五百樽(一樽二斗)ヲ一期普通ノ收穫トス

豊凶ノ差本業ヨリ甚シキモノナシ試ニ前記ノ收穫高ヲ漁夫一名ニ分割スルトキハ三石ヨリ十餘石ノ間ニアリ亦以テ豊凶ノ期シ難キヲ知ルニ足ラン

製 造

製品ニ搾粕、田作、乾鰯、鹽鰯ノ四種アリ搾粕最モ舊ク且ツ最モ廣ク行ハル殆ト收穫ノ全部ヲ占ム田作ハ函館區及龜田郡ノ一部ニ行ハル鯧ヲ以テ製ス乾鰯ハ勇拂地

方ニ行ハレ鯧ヲ以テ製ス鹽鯧ハ函館區ニ於テ製ス主トシテ鱈釣餌料ニ供ス食用ノ爲メ札幌其他ノ地方ニ輸送スルコトアリ其額大ナラス田作以下ノ三種ハ近年ノ製産ニ係リ極メテ小數ニシテ品質亦優等ナラス改良ヲ要スル點多シ

搾粕 煮魚及壓搾ノ事、既ニ沖揚ニ從事スルヤ賄(船頭ノ下ニ屬シ沖揚製造等陸ニ在テ漁夫ノ指揮ヲ掌ル者)ハ煮方(製造ニ從事スルモノ)ヲ督勵シテ煮釜ニ水ヲ注キ火ヲ焚キ準備ヲ整ヘ釜水沸騰スルヲ待チ魚坪ニ堆積セル魚ヲ釜ニ移シ煮沸スルコト三十分間煮熟スルヲ待テ之ヲ搾胴ニ移シ搾木ヲ加ヘテ壓搾ス煮水ハ專ラ鹹水ヲ用フ

乾燥ノ事、壓搾シタル塊なまヲ乾塲ニ送り蕙ノ上ニ適宜配置粉碎シ一日八九回之ヲ攪亂シ乾燥ヲ容易ナラシム如此スルコト二日半乃至三日ノ後二三十石ノ搾粕ヲ蕙ノ上ニ屋根形ニ盛り蕙ヲ蔽ヒ一週間乃至三週間ヲ經淡黃色ヲ帶フルニ至リ更ニ一日間乾燥シ之ヲ粕庫ニ貯藏シテ俵裝ス龜田郡茅部郡ノ一部ニテハ初冬漁獲シタル魚ヲ煮熟壓搾シタル儘屋内ニ疊積シ翌年融雪ノ時ヲ待テ乾燥ス之ヲたま粕ト稱ス又勇拂地方モ後期ニ至レハ此たま粕ヲ製スルコトアリ日高地方ハ霖雨ニ妨ケラレ乾燥スル能ハサルニ際シ塊ノ内部ニ蛆ヲ生スルヲ恐レ地中ニ穴ヲ穿チ塊ヲ藏シ上ニ沙ヲ散布シ蕙ヲ蔽ヒ晴天ヲ待テ乾燥スルコトアリ之ヲ穴粕ト稱ス

歩留リノ事、魚族ノ種類又ハ脂膩ノ厚薄ニヨリ等差アリ建一本即チ二十二三貫目ノ搾粕ヲ製スルニ生魚百四十貫目乃至百七十貫目ヲ要ス故ニ生魚一〇〇、ニ付粕一二、九四乃至一五、七一ヲ得ルノ割合ナリ
 製品優劣ノ事、上記ノ方法順序ニ據リ完全ニ製造シタル粕ハ之ヲ精粕ト云ヒ煮熟足ラサルカ或ハ壓搾充分ナラサルヨリ油分ヲ含ミ色澤ヲ失フテ赭色ヲ帶ヒ又ハ乾燥中雨ニ逢ヒ淡黑色ヲ帶フルモノヲ荒レ粕又ハ次キ粕ト云フ穴粕ハ黑色ヲ呈シ最モ劣品トス左レハ煮熟、壓搾、乾燥ノ三者ハ製品ニ優劣ヲ生スル主因トス此他製造規模ノ大小ト器具ノ整否及乾場地質ノ如何ハ品質ノ善惡ニ關スルヤ大ナリ優品ノ產地ヲ順列セハ勇拂ヲ最トシ日高之ニ次キ茅部上磯龜田ノ諸郡ヲ殿トス蓋シ渡島國ノ漁業ハ歩方營業(勞力物貨ヲ出資シテ利益ヲ分配スルモノ)多ク規模小ニシテ龜田郡ノ如キハ生魚若クハ塊粕ヲ分配シ殆ト各自ニ製造スルノ狀アリ勢ヒ粗品濫製ヲ免カレス上磯郡ハ入稼漁場ナレハ製造亦善良ナラス之レニ反シテ勇拂日高ノ漁民ハ概シテ自營(資ヲ投シ漁夫ヲ賃役シテ營業スルモノ)ナルヲ以テ品質聲價ノ何如ハ直接ニ痛痒ヲ感スルヤ切ナリ是レ產品ノ市場ニ噴々ノ高評ヲ博スルヲ勉ムル所以ナリ
 價格ノ事、價格ニ高低アルハ品質ニ等差アルニ由ルノミナラス收穫ノ季節ト需用地ノ嗜好トニ關スル亦大ナリ故ニ品位ニヨリ一定ノ標準ヲ立ツルハ至難ノ事

告 報 業 漁 鱈

製 造

六十六

ナリ強テ正確ノ標準ヲ求メント欲セハ一ニ分析ニ據ラサルヲ得ス今日賣買上ノ慣例ニヨレハ樽前粕ヲ最高トシ日高、山越、函館、茅部、上磯、龜田ノ順位タリ蓋シ製造季節ノ早晚ニ由テ此等差ヲ生スルモノ、如シ即チ春漁ヲ第一トシ夏漁之ニ次キ秋漁ヲ下トス函館近傍ノ製品劣等ナルニ比シテ價格ヲ保ツハ市場ニ接近シ運搬ノ便利ヲ占ムレハナリ上磯、龜田ノ二郡ハ函館ヲ距ル甚タ遠カラス而シテ價格ノ函館ニ及ハサルハ粗製ノ弊脱却セサルニ坐ス函館商人ノ此地方ヨリ製品ヲ買フニ方リ必ラス沙引キト稱ヘテ重量ノ幾分ヲ控除スルヲ例トス亦以テ製品ノ佳良ナラサルヲ知ルニ足ラン左ニ各地百石ニ對スル價格ヲ示ス

地名	場	價 格
上磯郡	上磯郡	六〇〇〇 <small>円</small>
龜田郡	龜田郡	六〇〇〇
茅部郡	茅部郡	六〇〇〇
山越郡	山越郡	七〇〇〇
勇拂郡	勇拂郡	七〇〇〇
沙流郡	沙流郡	六五〇〇
新冠郡	新冠郡	六一〇〇
靜内郡	靜内郡	六一〇〇
三石郡	三石郡	六一〇〇

收 獲 及 製 造

浦 河 郡
 樣 似 郡
 廣 尾 郡

五 六 五
 八 〇 五
 〇 〇 〇

荷造ノ事、蕙ヲ以テ俵裝ス一定ノ法式ナク甚々粗造ヲ極メタリ三縣分轄ノ時俵裝改良ヲ促カシ爾來大ニ面目ヲ改メ頗ル堅固トナレリ然レモ容量ハ一定セス概テ二十一貫目乃至二十四貫目ヲ一俵トス製品ノ信用ヲ維持セシ爲メ漁業組合檢證ノ章ヲ附シテ輸出スル事行ハル費用概算左ノ如シ

蕙一枚 金六錢 中間繩一把 金五錢

人夫賃ハ漁夫ヲ使役スルヲ以テ精算シ難シ

魚油 搾粕製造ノ副産ヲ魚油トス煮熟シタル魚ヲ壓搾スルニ方リ油分ハ水分ト共ニ搾胴ヨリ漏出シ胴流シノ一隅ニアル孔口ヨリ滴下シ樋ヲ通シテ油槽ニ入ル油槽ヲ區劃シテ甲乙二槽トス油ト水ハ相混シテ先ツ甲槽ニ入ルモ油ハ輕キカ故ニ上層ニ浮ヒ更ニ乙槽ニ注流ス水ハ下層ニ沈ミ甲槽ノ側面ニ穿テル孔ヨリ外部ニ流出シ自然ニ水、油ヲ分ツノ設ナリ既ニシテ油ノ乙槽ニ滿ツルトキハ大油槽ニ移シ凡二週間曝露シ清澄スルヲ待テ油樽若クハ石油空罐ニ容ル油量ハ魚族ノ種類、季節、地方ニ由リ多寡ノ差アリ鯷ハ最モ多量ヲ含ミ鯷之ニ次キ兒鯨最モ少量ナリ搾粕百石ニ付六石乃至二十石ヲ得新鮮ノ魚ハ多量ノ油分アリ生氣減スルニ

從ヒ油分亦減ス

乾塲 製造ニ最モ必要ナルモノハ乾塲ナリ其位地々質ハ製品ニ優劣ヲ生シ經濟ニ利害ヲ與フル尠カラス故ニ漁民ノ最モ注意シテ撰擇スルハ實ニ此乾塲ナリ上文漁塲ノ章ニ記述セル如ク本道ノ鯧漁塲ハ沿岸平沙ノ處ト山岳海ニ迫ル處ト相半スルヲ以テ乾燥ニ著シキ不便ヲ感セサルモ仔細ニ各地ノ狀況ヲ詳カニセハ便否霄壤ノ差ナシトセス左ニ其概畧ヲ記ス

樽前漁塲ハ勇拂原野ヲ控ヘ山嶽海ヲ距ル遠ク沿岸數里ノ沙濱ハ平坦砥ノ如シ水面ヲ抜クコト僅ニ十數尺ニ過キス加フルニ上層ハ火山灰ヲ以テ掩ハレ地積廣潤良好ノ乾塲ニシテ全道無比ノ地トス樽前粕ノ市場ニ出群ノ聲價ヲ博スルハ蓋シテ乾塲ノ力與カツテ多キニ居ル山崎漁塲ハ第二位ヲ占メ日高各郡ハ地形狹隘ニシテ乾塲ニ適スル處少キモ網數ノ多カラサル爲メ相當ノ乾塲ヲ有セリ故ニ之ヲ各個人ノ便利ヨリ見ルトキハ樽前ニ次クノ位次ヲ占ム茅部郡砂崎ハ平坦廣濶白沙滿布國中第一ノ良塲ナリ上磯郡木古内ノ沙濱良好ノ乾塲タルヲ失ハサルモ沼池近ク背後ニ迫リ狹隘ノ憾ナキ能ハス有川及函館區大森濱亦良好ナラサルニアラサルモ區域甚タ廣カラス漁業ノ旺盛ナルニ比シテ地積ノ廣カラサルヲ憾ムハ龜田郡トス根法華及古武井ノ二濱アルノミ其他ハ岬角岩石ノ間隙地ニアラサレハ沙丘ノ海ニ迫リタル餘地アルノミ其不便狹隘云フ可ラス汐首以東尻岸内ノ間ハ

收 獲 及 製 造

海濱岩石ニシテ乾場ヲ得ス庭園宅地若クハ背後ノ丘上ヲ乾場ト爲スニ過キス此不便ト勞力トヲ計算スルトキハ他ノ地方ニ比シテ經濟上ノ得失蓋シ大ナルモノアリ廣尾地方亦嶮崖ノ下僅ニ積礫ノ餘地アルノミ漁業甚タ隆興ナラサルヲ以テ不便ヲ感スル龜田郡ノ如ク甚タシカラズ左ニ一漁場ニ使用スル地積ノ廣狹ヲ示ス

地名	廣	狹	普	通	最	廣	最	狹
浦河郡				六〇〇		一〇〇		?
三石郡				一〇〇		一五〇		?
靜内郡				一五〇		二〇〇		?
新冠郡				一五〇		?		?
沙流郡				一五〇		二〇〇		八〇〇
勇拂郡				一五〇		二〇〇		一〇〇
山越郡				五〇〇		八〇〇		二〇〇
茅部郡				六〇〇		一〇〇		三〇〇
龜田郡				四〇〇		六〇〇		二〇〇
函館區				六〇〇		八〇〇		四〇〇
上磯郡				六〇〇		八〇〇		四〇〇

告 報 業 漁 鱈

製 造

七

沿岸自然ノ地勢ニ據テ乾場ヲ設ケ人工ヲ加ヘ經營スルハ甚々稀レナリ僅ニ地準シテ爲スニ過キス勇拂、茅部、上磯ノ諸郡ハ多少ノ修理ヲ加フレトモ山越郡及日高各郡ハ自然ノ沙濱ヲ利用スルノミ又漁業ニ必要ナル建物等ハ多ク乾場内ニ設ク其經費概算左ノ如シ

地名	納屋	網庫	船庫	船庫兼用	籠庫	釜場
上磯郡	一五〇 <small>円</small>	三〇 <small>円</small>	?	六〇 <small>円</small>	四五 <small>円</small>	一〇 <small>円</small>
龜田郡	三〇〇	?	?	?	?	一六
茅部郡	一〇〇	三〇	五〇	五〇	?	八
山越郡	三〇	?	?	二〇	?	四
勇拂郡	二八〇	五〇	二五	八〇	三〇	?
沙流郡	一〇〇	五〇	?	一〇〇	?	?
三石郡	二〇〇	六〇	一〇	一五〇	?	?
廣尾郡	一〇〇	四〇	?	一〇〇	?	?

製造器具 榨粕ノ製造方及器具ハ全道ヲ通シテ同シ但規模ノ大小ニ依リ整否アルノミ其形狀員數等ハ鯨漁業ニ使用スルモノト同シ故ニ同調査報告ニ讓リ只概略ヲ掲ク

一煮釜 八枚 一壓搾器 八臺
右ノ外擔桶、柄杓、籠、油槽、油樽、等ノ雜具

上記ノ新調費凡貳百圓ヲ要ス

以下府縣及歐米製ノ食用品製方ヲ掲クテ參考ニ資ス

田作 新鮮ノ鯧ヲ目籠ニ盛り淡水ニテ洗滌スルコト三四回沙塵及鱗ヲ去リ簀ノ上ニ擴クテ日乾ス稍乾燥シタルトキ他ノ簀ヲ覆ヒ反轉シ細竹ヲ以テ簀ヲ撲チ附着セルモノヲ墜落ス斯ノ如クスルコト數回ノ後筵ニ移シ五六日曝露ス乾燥中ハ一日ニ二三回宛攪亂シ日暮ニ至レハ筵ノ兩端ヨリ卷包シ以テ濕氣ヲ防ク乾燥既ニ了レハ塵埃ヲ去リテ俵裝ス乾燥充分ナルモノハ凡二ケ年ノ貯藏ニ堪ユ製造上特ニ注意スヘキハ製品ノ色澤ヲ失ハサルニ在リ前記ノ沙塵ヲ去リ鱗ヲ除キ日乾ヲ充分ナラシムルト否トハ品質ノ優劣ヲ生スル主因ナリ地方ニヨリ砂乾ト稱シ沙濱ニ乾燥スルコトアレトモ頗ル劣等品ナリ明治四五年ノ頃始メテ清國ニ輸出シ爾來其額ヲ増シ二十四年ニ至リ八十餘萬斤(價額貳萬五千餘圓)ニ達セリ五十斤ヲ一荷トシ菰ニ包ミ又筵ニテ上包ヲナシ繩ヲ横三條縱四條掛ク小口ヲ丁寧ニ編掛トス

腮刺鯧 鯧ヲ以テ製ス二斗五升入ノ桶ニ食鹽二升五合ヲ投シ淡水ヲ注キ能ク混和シタル後魚ヲ浸シ翌朝之ヲ出シ液汁ヲ滴下セシメ鰓孔ヨリ口ニ竹串ヲ通

シ連貫スル十二尾之ヲ一串トナシ再ヒ淡水ニ洗滌シ棧棚ニ掛ケ曝乾スルコト
 凡七日五串宛上下互ニ重テ十串ヲ割竹ニ插ミ兩端ヲ約シ一束トス
 煮乾兒鮠 桶ニ淡水ヲ盛り之ニ新鮮ノ鮠或ハ鯢ノ兒魚ヲ浸シ沙塵ヲ洗滌シ箆
 ニ揚ケ釜ニ淡水(一斗ニ付食鹽二三升ヲ入ル)ヲ沸騰セシメ兒鮠二三升ヲ投シ徐
 ヲ攪拌シテ魚ノ釜底ニ焦ケ付クヲ防キ浮上スルヲ度トシ攪網ヲ以テ箆ニ揚ケ
 水分ヲ滴下セシメ筴又ハ簀ニ攢ケ日乾スルコト二三日ニシテ製了ス又魚ヲ煮
 熟スルニ箆ノ儘釜中ニ投スルモノアリ凡テ煮沸スルハ屢湯ヲ替ユルヲ可トス
 否ラサレハ煮汁次第ニ汚濁シ煮熟遍チカラス且ツ色澤ヲ損スレハナリ又潮水
 ニ少量ノ食鹽ヲ加ヘテ煮沸スルモノアレトモ品位劣レリ内國需用品ニシテ關
 西地方特ニ調味品ニ用フル多シ近年清國ニ輸出スル額尠チカラス
 薰製鮠 新鮮ナル鮠ノ鰓孔ヨリ臟腑ヲ抜キ去リ仔細ニ洗滌シ三百尾ニ二合ノ
 食鹽ヲ撒布シ底ニ孔ヲ穿テル桶ニ漬ケ六七時間ニシテ淡水ニ洗滌シ空氣ノ疏
 通スル所ヲ撰ヒ陰乾シ水分ヲ去リ薰室ニ移ス凡五七日ニシテ製造成ル薰室ノ
 製方一ニシテ足ラス簡易ナルモノヲ示サハ廣サ方四尺乃至六尺高サ六尺乃至
 九尺壁ノ一方ニ開閉シ得ヘキ窓ヲ設ケ新鮮ノ空氣ト室内ノ空氣トヲ交換セシ
 ムル用トシ室内ニ數段ノ横木ヲ架シ箆ヲ敷キ魚ヲ排列シ室ノ中央ニ方二三尺
 ノ爐ヲ設ケ之ニ檜、樅、櫟等ノ堅木燃料二三本ヲ焚キ尙ホ鋸屑若クハ玉蜀黍ノ心

殼ヲ加ヘ煙ヲ發セシメ爐上一尺五寸許ノ處ニ方二尺ノ鐵板ヲ吊シ煙及熱ヲ室
 内ニ平等ニ飛散セシムルノ用ニ供ス久シク貯藏ニ堪ユル製品ヲ得ント欲セハ
 適度ノ煙氣ヲ吸收セシムルノ傍ヲ徐々ニ乾燥セシムヘシ若シ室内ノ空氣乾燥
 ニ過クレハ外部ノミ乾燥シテ内部水分ノ發散ヲ妨ク乾燥平均ヲ得ス又煙氣濕
 潤ニ過クレハ濕氣ヲ吸收シテ乾燥シ難シ故ニ窓ノ開閉ヲ慎ミ火度ヲ節シ水蒸
 氣ヲ發散セシムルヲ要ス溫度ノ標準ハ華氏六十度ヨリ百度ノ間ニ在リ其強弱
 ハ一ニ季候ト當業者ノ方寸ニ存ス

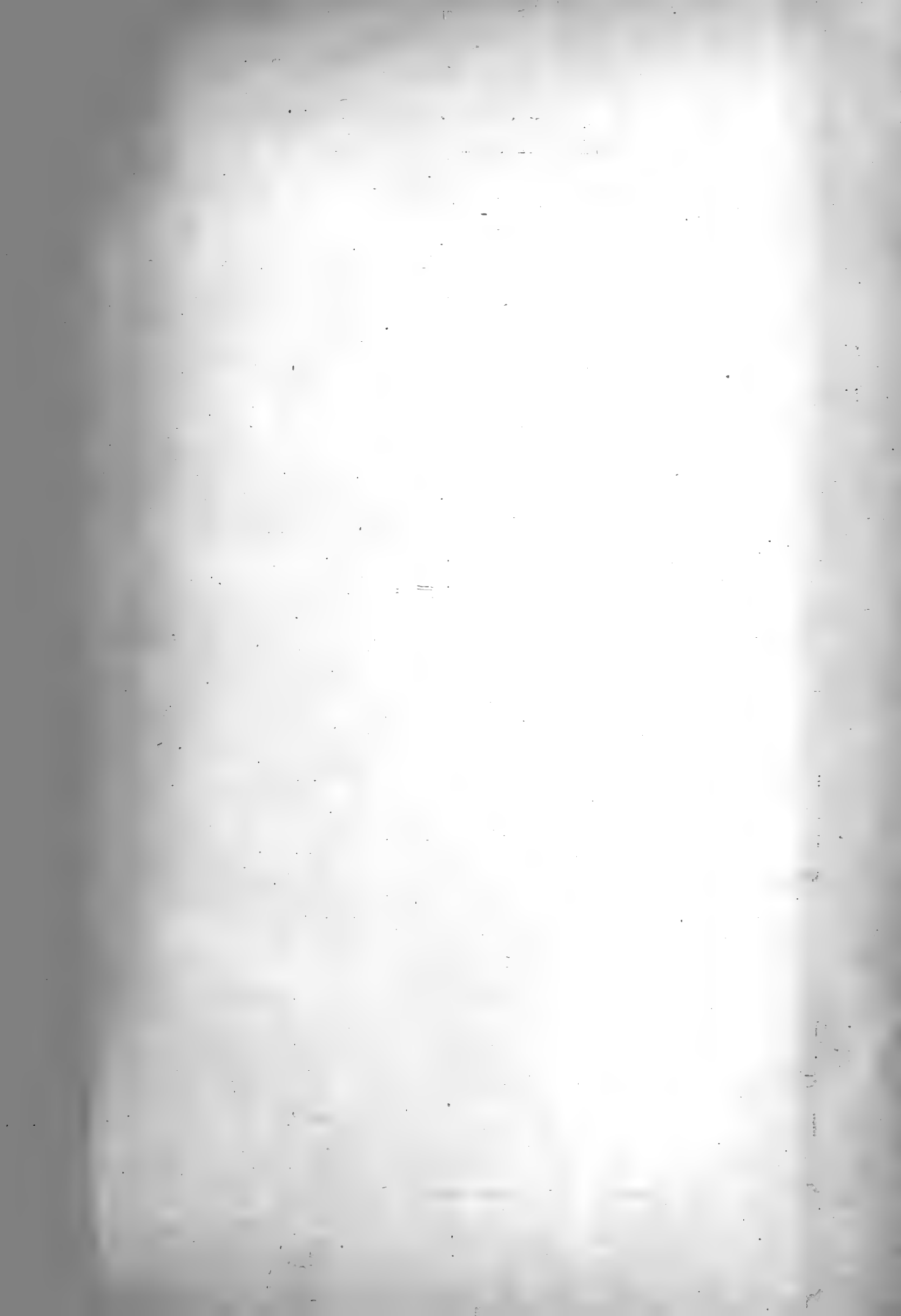
鹽漬鰯 一斗量ノ魚ニ食鹽二三升ノ割ヲ以テ桶若クハ樽ニ漬ク菰ヲ蓋ヒ壓ヲ
 加ヘ二三週間ヲ經テ更ニ撒鹽シテ荷造リス歐米ニテハ漁獲後船中ニ於テ直ニ
 淡鹽ヲ施シ陸ニ歸テ肉色形狀ノ佳ナルモノヲ撰ヒ海水ニテ洗滌シ高サ一尺五
 寸徑一尺位ノ樽ニ食鹽凡四合ノ割ニテ漬ク壓蓋ヲナシ三四貫目ノ壓石ヲ載セ
 二三日ニシテ魚ノ容量減セハ樽ノ箍ヲ緩メ液汁ヲ漏出セシメ更ニ魚ト少量ノ
 鹽トヲ加ヘ壓スルコト前ノ如シ魚樽ニ充ツルトキハ液汁ヲ盡ク去リ更ニ煮沸
 冷却シタル鹽水ヲ注入シテ密封ス四五ヶ月ヲ經テ變味セサルモノハ三ヶ年間
 ヲ保ツト云フ又魚十貫目ニ鹽七貫五百匁ヲ加ヘ桶ニ漬ク六週日ノ後許多ノ小
 孔ヲ有スル假底ヲ入レタル樽ニ移シ整正重積シ充滿スレハ蓋ヲ加ヘ其上ニ枕
 木ヲ載セ壓搾シ量積減スレハ更ニ魚ヲ加ヘテ壓搾シ箍ヲ緊戒シ上部ノ蓋ヲナ

シ桶ヲ反轉シテ假底ヲ脱シ底ヲ設ケ箆ヲ施シテ嚴閉ス此製品ハ壓搾器ヲ以テ水分ヲ去リ重量ヲ減シ運搬ニ便ニシテ能ク數月ノ貯藏ニ堪ユルモ一度蓋ヲ開クトキハ再ヒ貯藏スルヲ得ス

凡鹽藏品ハ極メテ新鮮ナル鱗族ヲ撰ムヘシ敗鱖シタルモノヲ用フルトキハ多量ノ鹽ヲ施スモ魚肉緊縮セス腹部破レ尾鱗縮少シテ色澤ヲ失ヒ外觀佳ナラス味モ亦劣レリ

罐詰鯧 新鮮ナル鯧ヲ箆又ハ底及周圍ニ幾多ノ小孔ヲ穿テル木函ニ入レ千尾ニ付食鹽二升乃至三升五合ノ割ヲ以テ撒布シ一二回上下ニ反轉シ食鹽ヲ普及セシメ五六時間放置シ鹽氣ノ肉中ニ滲入シ魚體ノ稍堅硬トナルニ至レハ俎上ニ移シ利刀ヲ以テ胸鱗ノ下部ヨリ橫斷シ頭部ヲ除キ斜ニ腹部ヲ切り臟腑ヲ去リ僅ニ尾端ヲ切り「ボイメ」氏驗液器十八九度ノ鹽水ニ二時間浸漬シタル後燒キテ食味ヲ試ミ適當ナルトキハ洗滌シ亞鉛鍍鐵線製ノ梓ニ頭部ヲ下ニシテ並列シ風乾スルコト凡五時間水分ノ充分ニ滴下スルニ至レハ落花生油又ハ白絞胡麻油ヲ煮沸シタル銅鍋中ニ梓ノ儘投入シ油燂スルコト一二分時ノ後梓ノ儘周圍ニ緣ヲ設ケ鐵葉板ヲ張りタル卓子ニ並へ油分ヲ滴下セシメ方形ノ罐ニ頭尾ヲ交互ニ並列シテ盛り徐々ニ橄欖油ヲ注入シ手ニテ輕壓シ油ノ罐ニ充滿スルヲ度トシテ蓋ヲ箆メ封鎖ノ後煮沸スルコト「キロ」罐(二百六十六匁)ハ二時間、

二分ノ一「キロ」罐、四分ノ一「キロ」罐ハ一時三十分ヲ度トシ鋸屑ヲ盛リタル器ニ移シ罐ノ汚物ヲ拭ヒ形狀ト打撲ノ音響トヲ檢シ良否ヲ鑑別ス燐魚ノ火度ハ最モ強烈ナルヲ要ス長時ニ涉ルトキハ魚肉暗黒色ヲ呈シ硬固トナル又風乾ハ充分ナルヲ要ス油燐スルニ方リ外皮破裂シテ肉ノ損敗スルコトアレハナリ油ハ時時新鮮ノモノト交換スヘシ色澤ヲ損スルノ恐レアリ



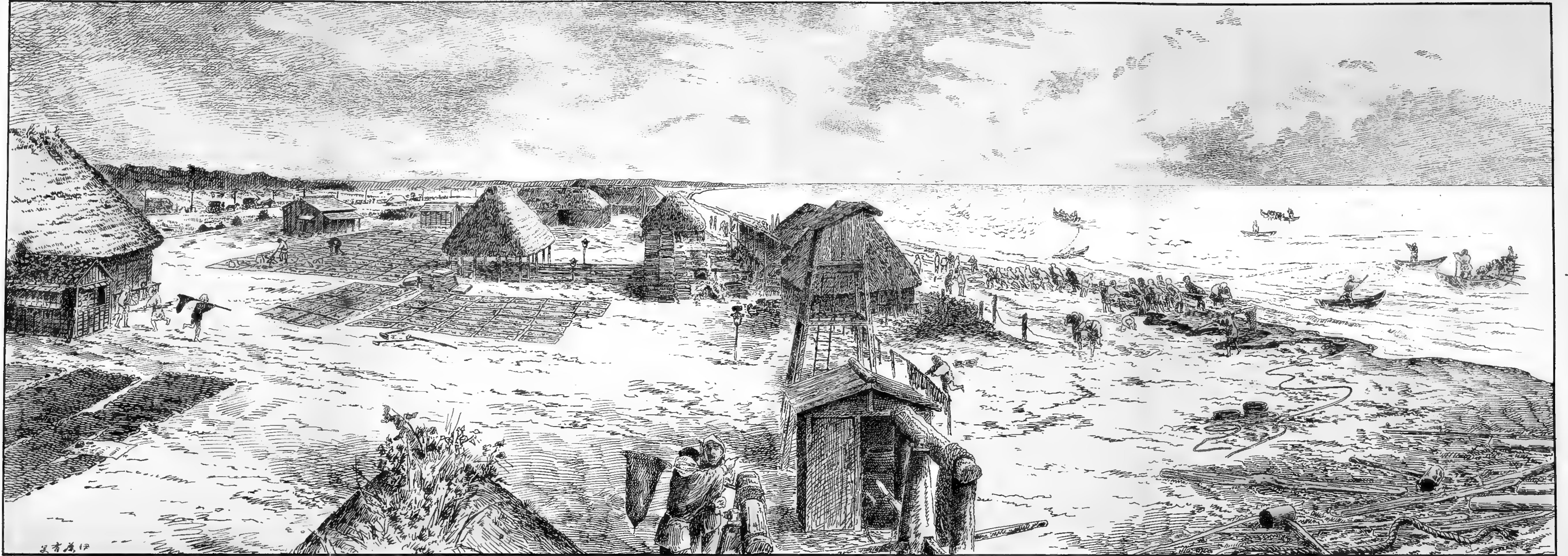
船 地 曳 網 漁 業 統 計

明 治 二 十 二 年

國名	郡區名	營業者			一人所有漁網				流			網			漁			船			漁			夫			收			獲					
		永住	入稼	計	四	三	二	一	計	大網	中網	小網	計	現行	休業	計	三半	保津	持符	艘船	計	內地	本道	計	推	相	盤	油	推	相	盤	油			
後志	島牧	—	1	1	—	—	1	1	—	1	—	1	1	—	1	—	—	—	1	3	20	—	20	54	283	—	—	—	—	—	—	—			
後志	合計	—	1	1	—	—	1	1	—	1	—	1	1	—	1	—	—	—	1	3	20	—	20	54	283	—	—	—	—	—	—				
渡	山前	7	—	7	—	—	7	7	—	—	7	7	—	—	7	4	3	—	—	7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
渡	檜松	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
渡	上函	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
渡	總田	8	3	11	—	—	10	11	—	6	6	12	12	—	—	10	—	20	12	42	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
渡	總田	97	5	102	—	—	98	102	—	20	29	109	107	—	2	52	89	197	149	487	1,168	1,150	2,318	19,283	107,326	708	3,329	2,453	13,961	22	104	—	—		
渡	總田	77	—	77	—	—	74	77	—	19	29	75	75	—	5	22	48	157	61	288	95	1,296	1,391	2,453	13,961	22	104	—	—	—	—	—	—		
島	合計	189	8	197	—	3	5	189	197	45	71	309	302	7	309	88	140	374	222	824	1,263	2,784	4,047	27,175	156,846	745	3,501	—	—	—	—	—	—		
膽	山越	9	33	42	—	—	42	42	—	3	—	42	40	2	42	7	33	15	69	124	852	114	966	1,562	9,684	53	212	—	—	—	—	—	—		
膽	有珠	9	—	9	—	—	8	9	—	—	10	10	3	7	10	—	—	3	6	—	—	70	70	77	484	1	5	—	—	—	—	—	—		
膽	白老	4	—	4	—	—	4	4	—	—	—	—	—	4	4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
膽	白老	5	—	5	—	—	5	5	—	—	—	—	3	2	5	3	6	3	—	12	50	55	105	150	1,044	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
膽	白老	35	1	36	—	—	33	36	—	—	—	17	17	22	39	16	40	17	73	625	—	625	625	7,229	48,558	362	2,715	—	—	—	—	—	—	—	
膽	合計	62	34	96	—	—	92	96	—	11	10	100	63	37	100	26	79	38	72	215	1,527	239	1,766	9,018	59,770	416	2,932	—	—	—	—	—	—	—	
日	沙流	5	1	6	—	—	3	6	—	1	—	9	9	—	9	8	1	26	9	44	25	251	276	1,414	10,583	182	965	—	—	—	—	—	—	—	
日	冠内	2	—	2	—	—	2	2	—	—	—	2	2	—	2	2	5	2	—	9	—	70	70	81	599	5	27	—	—	—	—	—	—	—	
日	新内	2	1	3	—	—	2	3	—	—	—	5	4	1	5	5	6	10	10	31	40	50	90	317	2,061	22	117	—	—	—	—	—	—	—	—
日	三石	2	1	3	—	—	—	3	—	—	—	7	6	1	7	6	12	18	—	36	63	120	183	605	3,628	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日	浦河	7	1	8	—	—	1	8	—	—	—	9	5	4	9	4	2	16	—	22	46	96	142	577	3,748	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日	浦河	5	—	5	—	—	5	5	—	3	—	5	4	1	5	3	—	9	2	14	15	125	140	200	1,200	25	133	—	—	—	—	—	—	—	
日	浦河	23	4	27	—	—	18	27	—	4	—	37	30	7	37	28	26	81	21	156	189	712	901	3,194	21,819	234	1,242	—	—	—	—	—	—	—	
高	浦河	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
高	浦河	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
十勝	廣尾	4	1	5	—	—	5	5	—	—	—	5	5	—	5	5	15	—	20	—	—	150	150	1,437	9,340	120	600	—	—	—	—	—	—	—	
十勝	合計	4	1	5	—	—	5	5	—	—	—	5	5	—	5	5	15	—	20	—	—	150	150	1,437	9,340	120	600	—	—	—	—	—	—	—	—
總計	合計	278	48	326	—	4	17	305	326	209	61	81	452	401	51	452	142	252	508	316	1,218	2,999	3,885	6,884	40,878	248,058	1,515	8,275	—	—	—	—	—	—	—

船 隻 統 計 漁 業 網 建 鱈

年次	國名	郡區名	漁場數			漁			船		
			現行	休業	計	三牛	保津	持符	磯船	計	
明治二十年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	10	—	10	20	7	37
			函龜茅合	—	—	13	—	2	26	13	41
			計	—	—	25	2	—	48	20	82
明治二十一年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	10	—	10	20	10	40
			函龜茅合	—	—	13	—	2	26	13	41
			計	—	—	26	2	—	50	25	90
明治二十二年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	8	—	8	16	8	32
			函龜茅合	—	—	16	—	3	38	16	57
			計	—	—	27	2	—	58	26	98
明治二十三年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	9	—	9	18	9	36
			函龜茅合	—	1	18	1	5	30	16	52
			計	—	2	31	2	—	50	25	92
明治二十四年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	11	—	11	22	11	44
			函龜茅合	—	2	44	—	5	57	85	147
			計	—	2	60	1	—	80	96	193
明治二十五年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	9	—	9	18	9	36
			函龜茅合	—	4	54	—	7	99	45	151
			計	—	9	69	3	—	122	56	199
明治二十六年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	10	—	10	20	10	40
			函龜茅合	—	17	74	—	21	109	51	185
			計	—	20	102	7	43	156	73	279
明治二十七年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	22	—	22	44	22	88
			函龜茅合	—	3	6	—	—	3	—	6
			計	—	3	102	—	—	156	73	279
明治二十八年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	22	—	22	44	22	88
			函龜茅合	—	17	74	—	21	109	51	185
			計	—	20	102	7	43	156	73	279
明治二十九年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	22	—	22	44	22	88
			函龜茅合	—	3	6	—	—	3	—	6
			計	—	3	102	—	—	156	73	279
明治三十年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	22	—	22	44	22	88
			函龜茅合	—	17	74	—	21	109	51	185
			計	—	20	102	7	43	156	73	279
明治三十一年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	22	—	22	44	22	88
			函龜茅合	—	3	6	—	—	3	—	6
			計	—	3	102	—	—	156	73	279
明治三十二年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	22	—	22	44	22	88
			函龜茅合	—	17	74	—	21	109	51	185
			計	—	20	102	7	43	156	73	279
明治三十三年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	22	—	22	44	22	88
			函龜茅合	—	3	6	—	—	3	—	6
			計	—	3	102	—	—	156	73	279
明治三十四年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	22	—	22	44	22	88
			函龜茅合	—	17	74	—	21	109	51	185
			計	—	20	102	7	43	156	73	279
明治三十五年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	22	—	22	44	22	88
			函龜茅合	—	3	6	—	—	3	—	6
			計	—	3	102	—	—	156	73	279
明治三十六年	渡島	函龜茅合	館田部計	—	—	22	—	22	44	22	88
			函龜茅合	—	17	74	—	21	109	51	185
			計	—	20	102	7	43	156	73	279



班 一 况 漁 鯧

村前樺郡拊勇國振騰

網地曳網漁業統計

明治二十三年

國名郡區名	業者	一人所有漁網		漁		網		漁		船		漁		夫		收	獲
		島	計	漁	網	漁	船	漁	夫								

十年	島	合	計	25	—	25	—	2	12	48	20	82
----	---	---	---	----	---	----	---	---	----	----	----	----

明治二十二年	渡島	函龜茅	館田部	10	—	10	—	10	20	10	40
		合	計	13	—	13	—	26	13	41	
明治二十二年	渡島	合	計	3	—	3	—	2	1	4	9
		合	計	26	—	26	—	50	25	90	

明治二十二年	渡島	函龜茅	館田部	8	—	8	—	8	16	8	32
		合	計	16	—	16	—	38	16	57	
明治二十二年	渡島	合	計	3	—	3	—	4	1	9	
		合	計	27	—	27	—	58	26	98	

明治二十三年	渡島	函龜茅	館田部	9	—	9	—	9	18	9	36
		合	計	17	—	17	—	30	16	52	
明治二十三年	渡島	合	計	2	—	2	—	2	—	4	
		合	計	28	—	31	—	50	25	92	

明治二十四年	渡島	函龜茅	館田部	11	—	11	—	11	22	11	44
		合	計	42	—	44	—	57	85	147	
明治二十四年	渡島	合	計	1	—	5	—	1	—	2	
		合	計	54	—	60	—	80	96	193	

明治二十四年	渡島	函龜茅	館田部	9	—	9	—	9	18	9	36
		合	計	50	—	54	—	99	45	151	
明治二十四年	渡島	合	計	1	—	6	—	1	—	4	
		合	計	60	—	69	—	122	56	199	

明治二十五年	渡島	函龜茅	館田部	3	—	3	—	3	6	—	12
		合	計	63	—	72	—	128	56	211	
明治二十五年	渡島	合	計	9	—	9	—	9	18	9	36
		合	計	50	—	54	—	99	45	151	

明治二十六年	渡島	函龜茅	館田部	22	—	22	—	22	44	22	88
		合	計	57	—	74	—	109	51	185	
明治二十六年	渡島	合	計	3	—	6	—	3	—	6	
		合	計	82	—	102	—	156	73	279	

明治二十六年	日高	浦	河	—	—	—	—	—	—	—	—
		合	計	—	—	—	—	—	—	—	
明治二十六年	日高	合	計	2	—	2	—	2	—	—	
		合	計	2	—	3	—	4	—	8	
明治二十六年	十勝	廣	尾	2	—	3	—	4	—	—	
		合	計	—	—	—	—	—	—	—	
明治二十六年	十勝	合	計	2	—	3	—	4	—	—	
		合	計	84	—	107	—	11	43	160	
明治二十六年	十勝	合	計	2	—	3	—	4	—	—	
		合	計	23	—	107	—	11	43	160	
明治二十六年	十勝	合	計	2	—	3	—	4	—	—	
		合	計	84	—	107	—	11	43	160	

網 地 曳 網 漁 業 統 計 明 治 三 十 三 年

啓 聖 考

一 八 所 右 漁 網

漁

網

漁

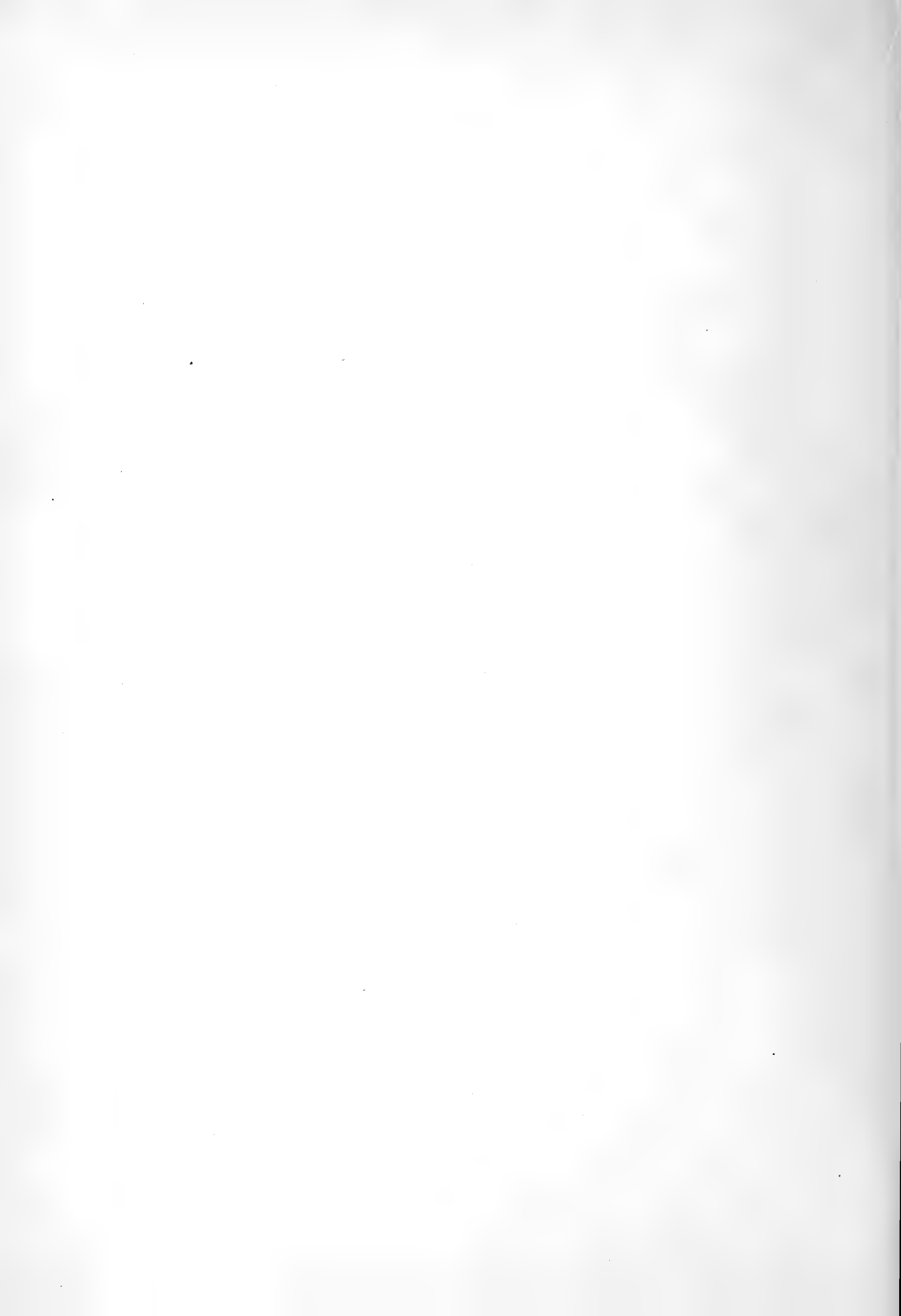
船

漁

去

心

精











しおし

CLUPEA MELANOSTICTA, SCHLEG.



しおし

ENGRAULIS JAPONICA, HOUTTUYN.



43

ANSTICTA, SCHLEG.



21

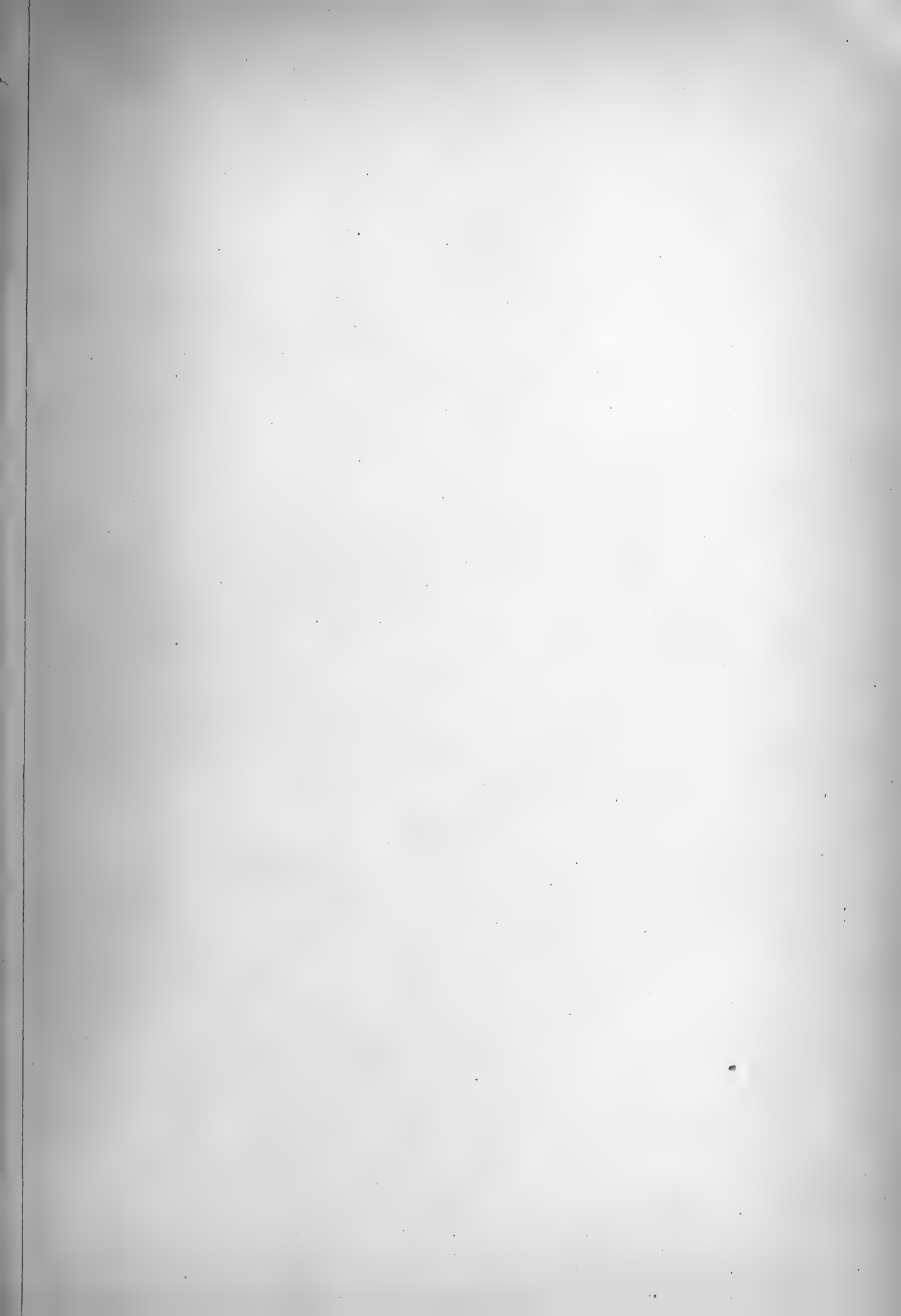
ANSTICTA, HOUTTUYN.



ㄷ
CLUPEA MELAN



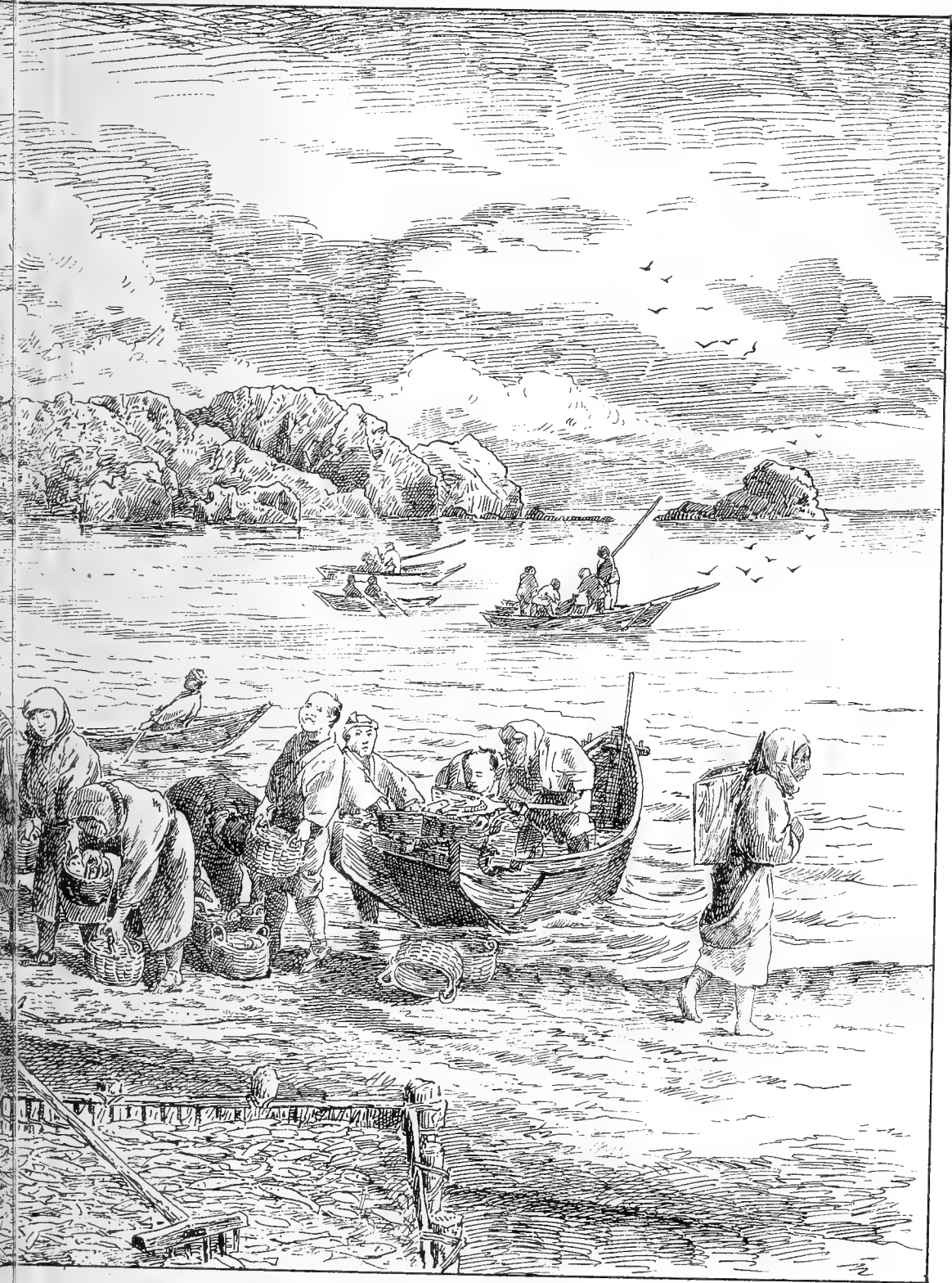
ㄹ
ENGRAULIS JAP



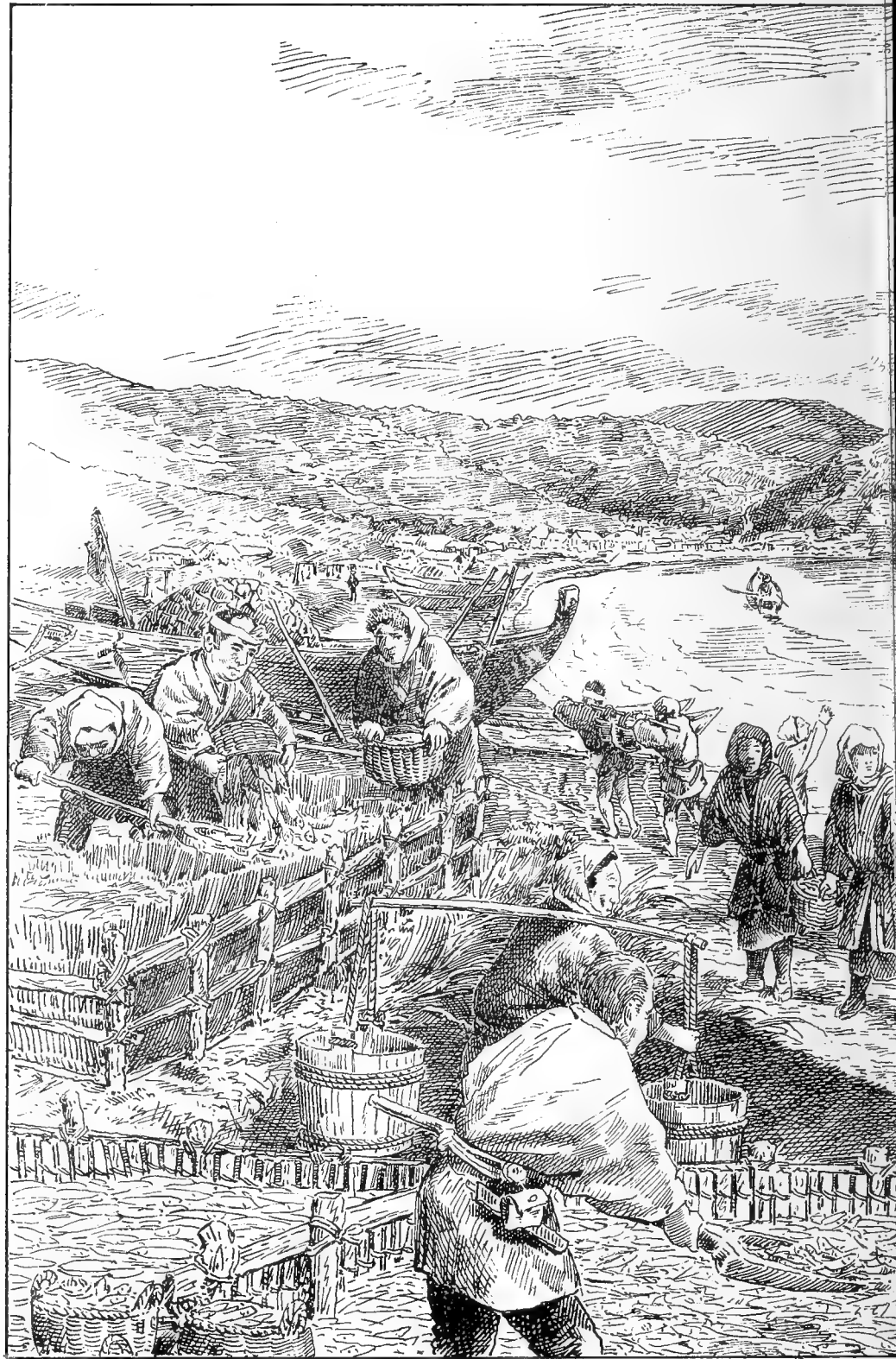


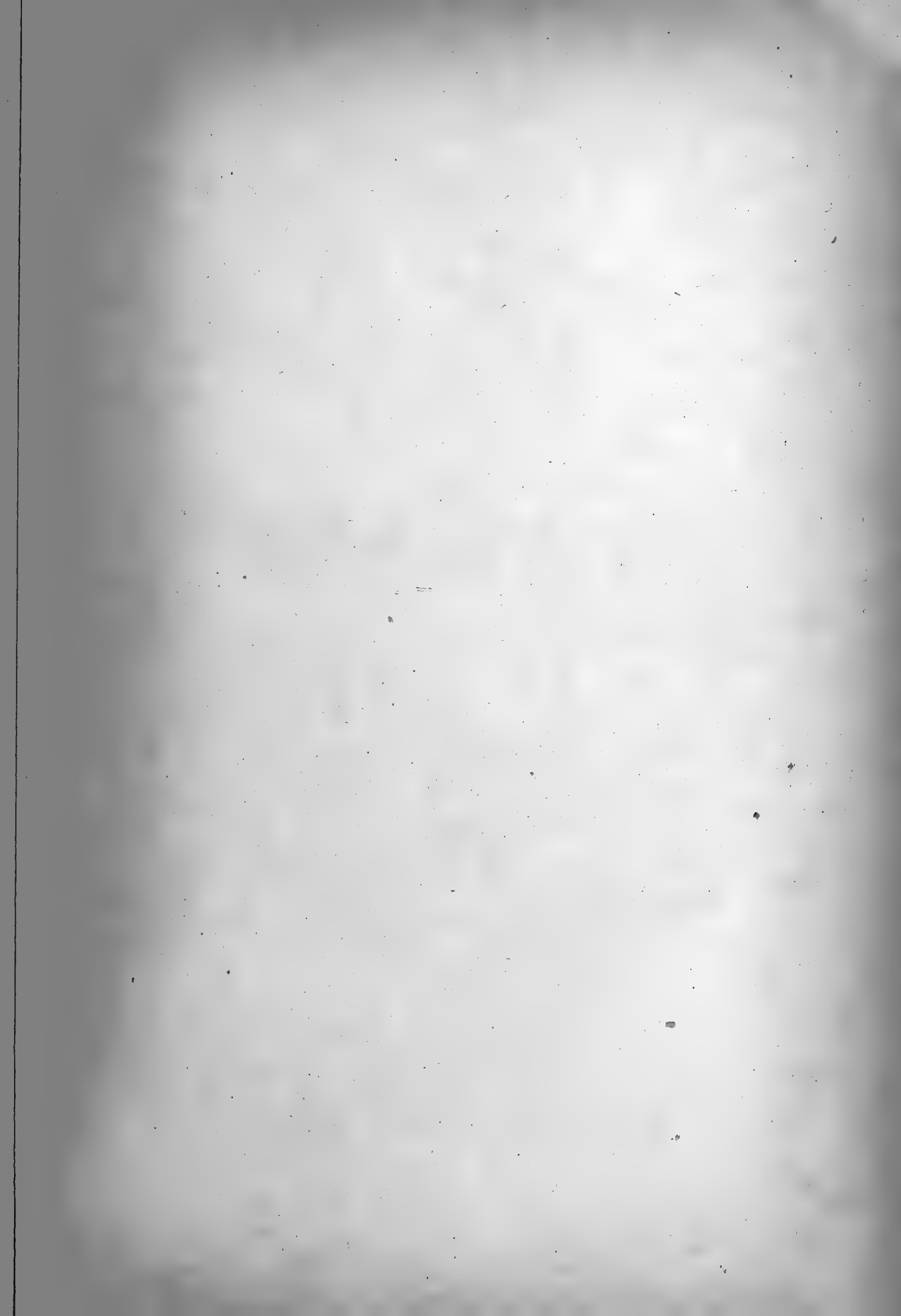
圖揚沖鯧

版圖三第



沖 鯷





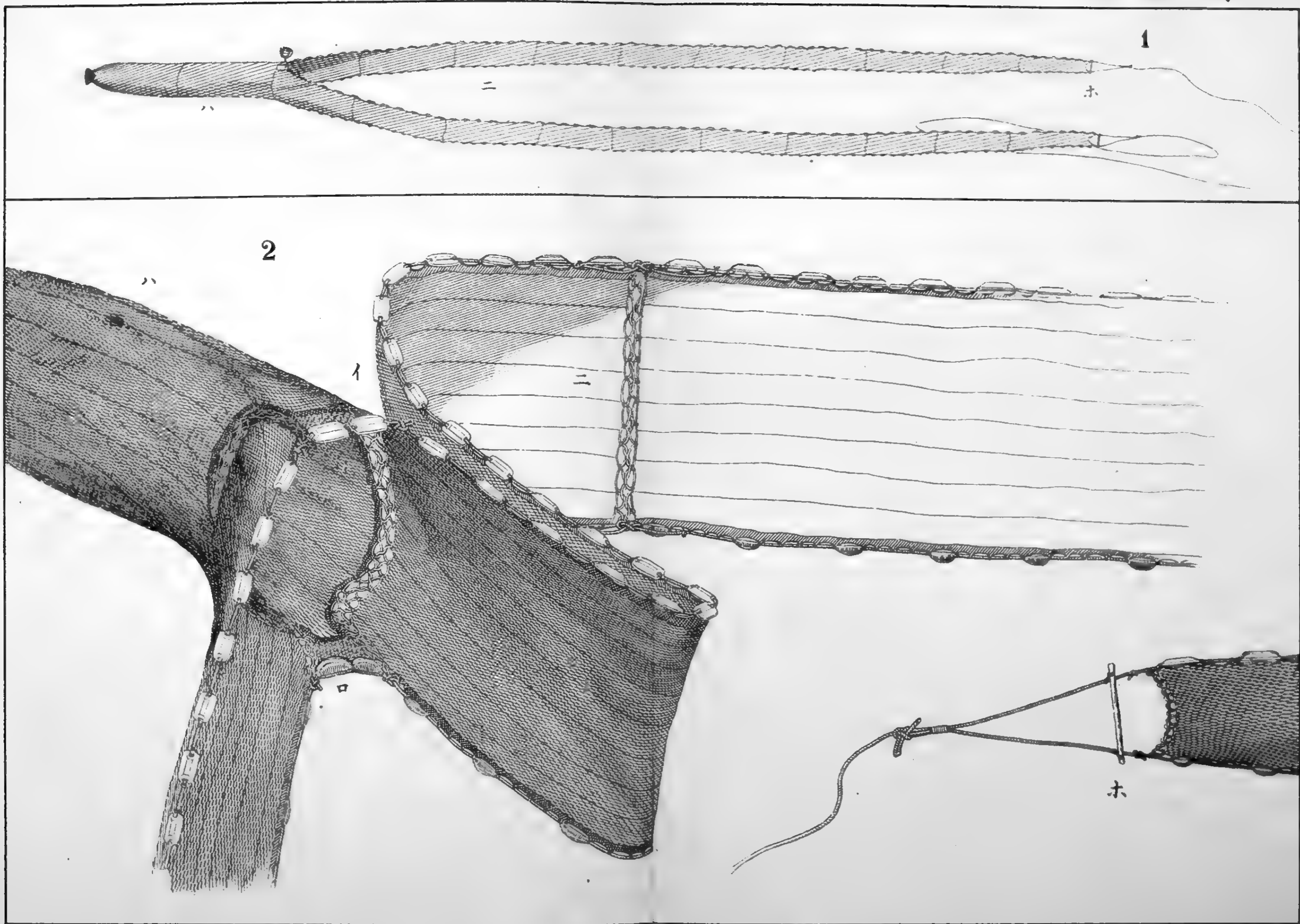
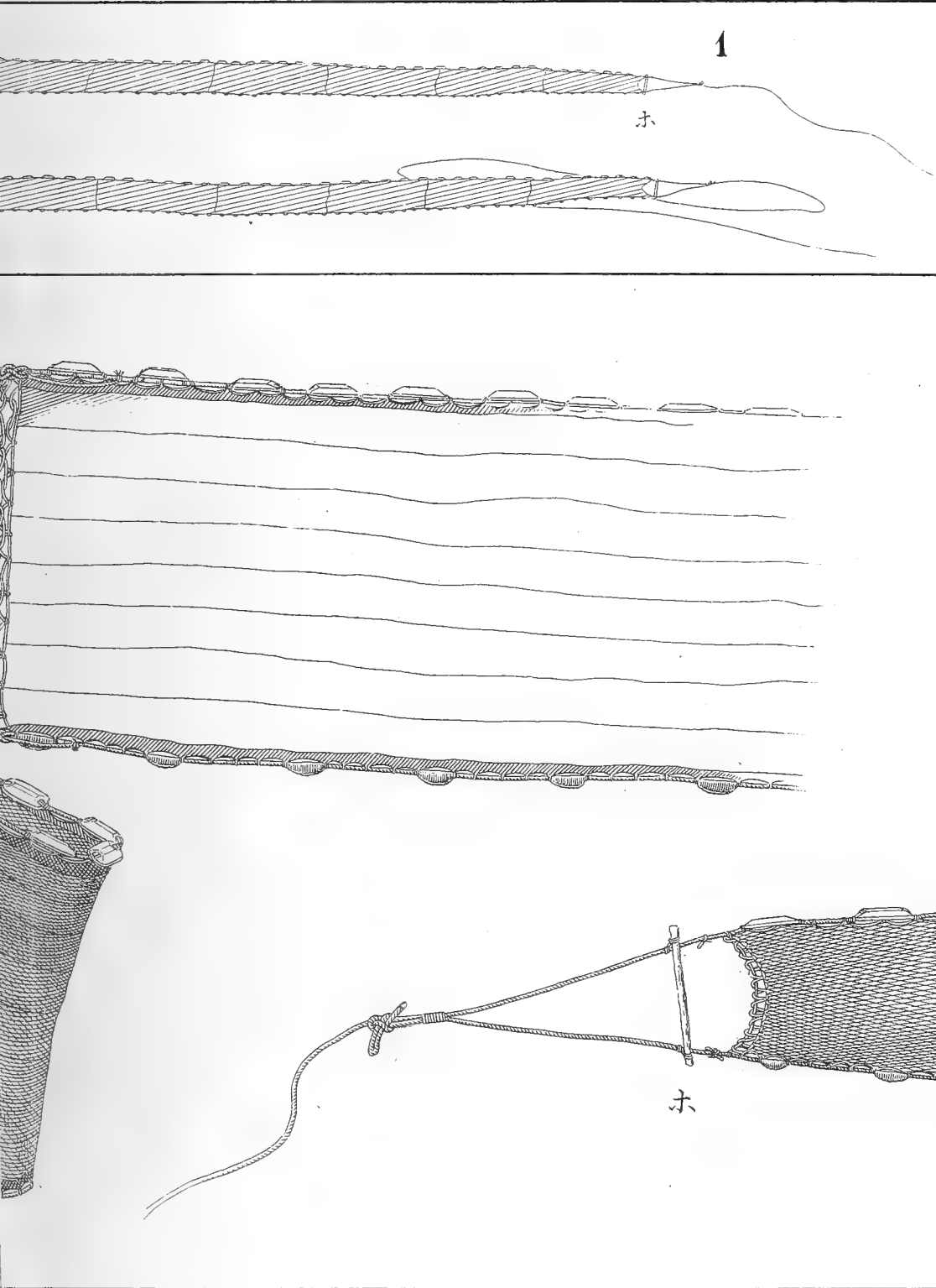


圖 網 曳 鰻

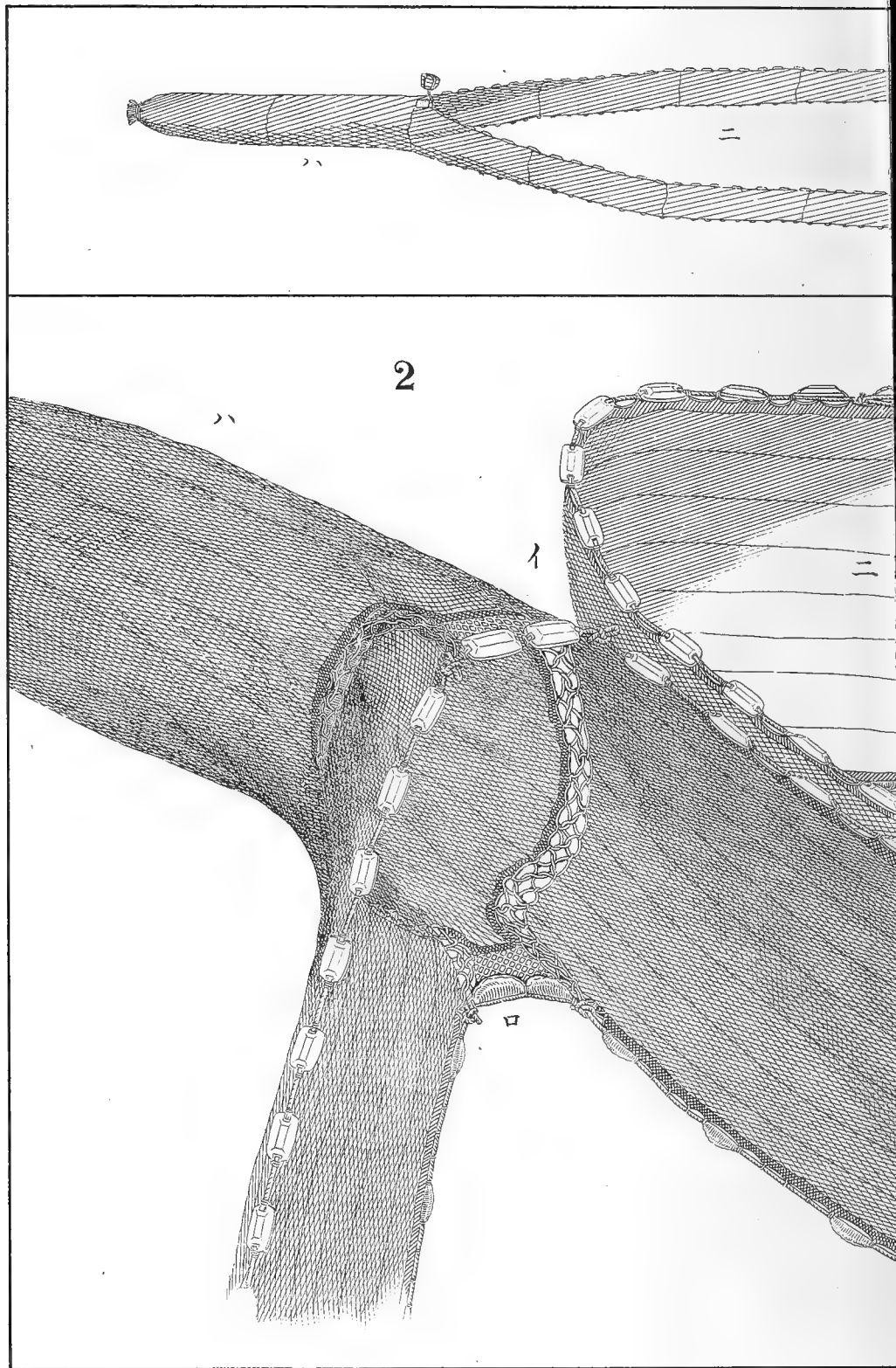
んかんせ じばいむか 不 部局 形全 正
ちた 運み 何、てそ 三 ろくふ 〇

版圖四第



曳 罾

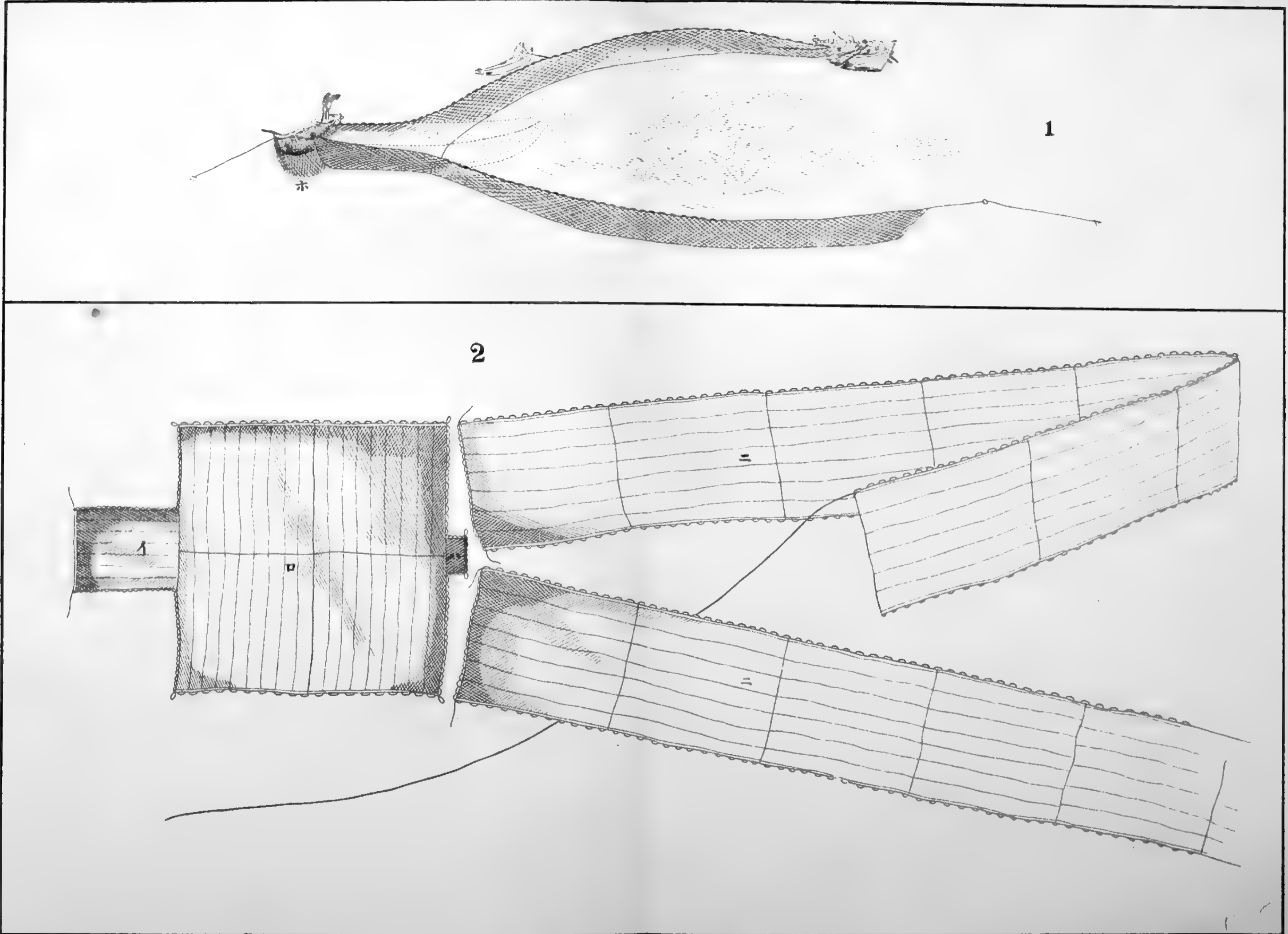
：ホ 罾 部 局 形 全 正
 女 阿、て そ 三 ろ く ぶ 〇



網 圖

んがんせ じばあし
ちた

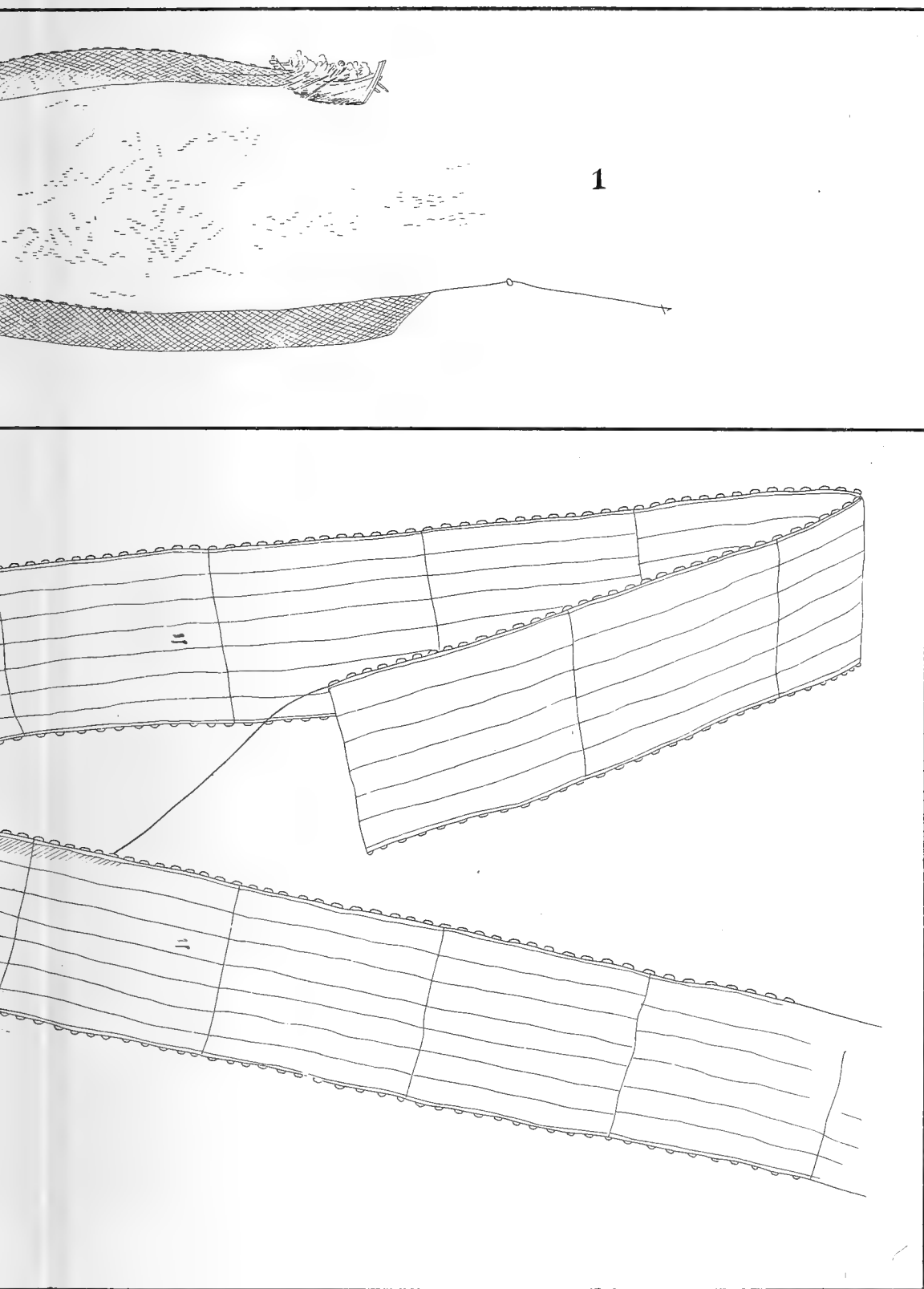




圖網舌小鯧

法造構包 法用使及形全

版圖五第



舌小鯧

法用使及形全①

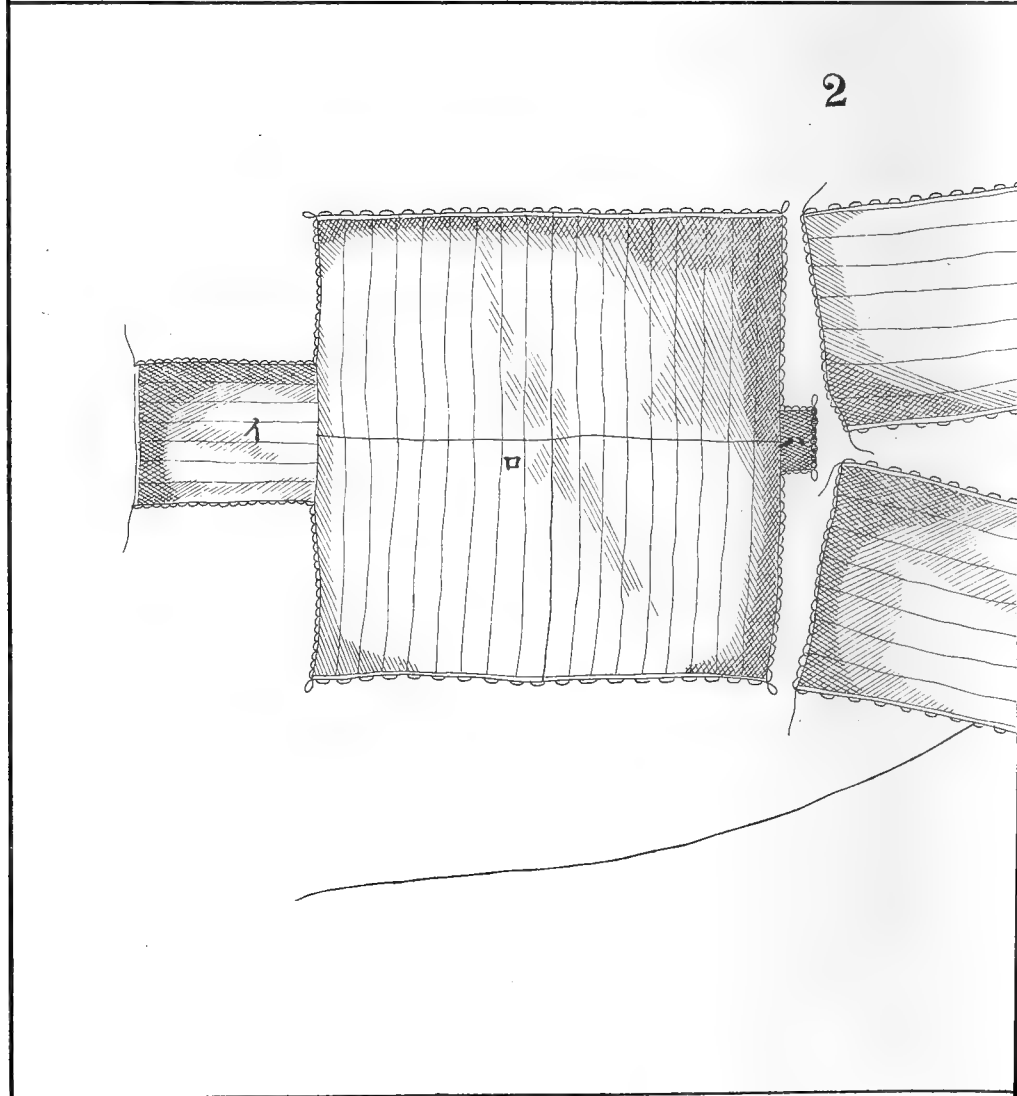
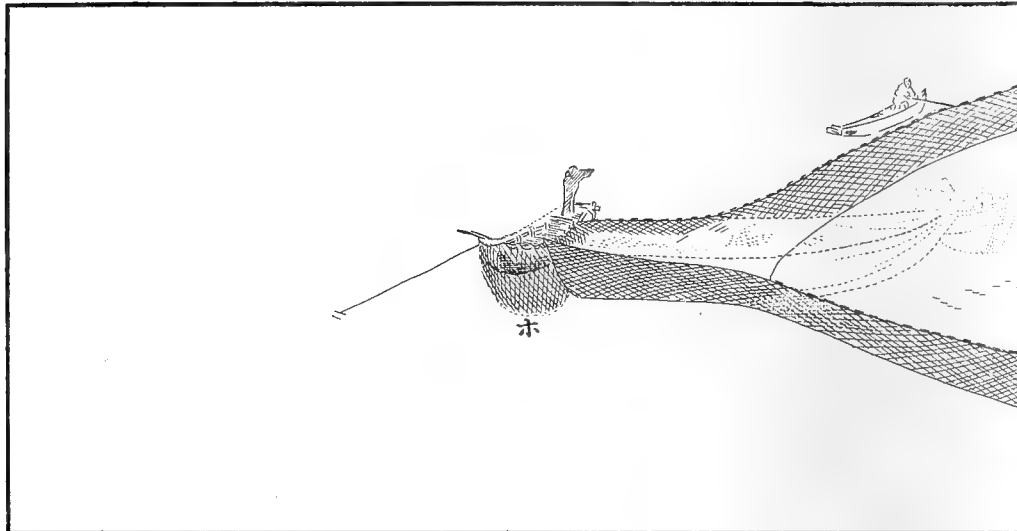


圖
法 造 構



明治二十九年三月廿七日印刷
明治二十九年三月三十日發行

北海道廳內務部水產課

印刷人

愛敬利世

印刷所

株式會社 秀英舍
東京々橋區西紺屋町廿六七番地

版權所有





597.09524

H 72

vol. 1 ~~111~~

Fishes

Hokkaido. Ministry of the
interior. Marine products
division.

Hokkaido Suisan chosa
Kan no itsu. Report on
a survey of the marine
products industry of
Hokkaido. Tokyo, 1895.

Listings.

